

ディレクトリ

前書き



ディレクトリは、そのサービスをシステム上の他のすべての Omnicast のサービスおよびアプリケーションの一元化さのカタログを提供するために必要とされるメインのサーバアプリケーションです。ディレクトリから、アプリケーションは、ビューの接続を確立し、中央集中型の設定情報を受け取ることができます。

以下のディレクトリ設定タブです。

アイコン	タブ	説明
	一般的な	接続とデータベースの設定。
	Eメール	以下のための追加のメールオプション メールを送る ア
	ロギング	(ファイルおよびデータベース・ロギングの両方のため
	Active Directory の	Windows の Active Directory でユーザープロファイルを同期します。
	パスワード	パスワードの有効期限通知。

一般的な

説明







この一般的なタブには、接続とデータベース設定を構成するために使用されます。

一般的な 設定

Directory の一般設定。


パラメーター	説明
ディレクトリ ポート	が使用するポート番号 ゲートウェイ サービス ディレクトリサービスの存在を検出することができます。その値は、すべてのゲートウェイの一般設定で見つかったディレクトリへの接続に使用するポートに対応する必要があります。
マルチキャストアドレスを開始	ために マルチキャスト 同じポート番号を使用している間、すべてのオーディオおよびビデオソースが異なるマルチキャスト IP アドレスにストリーミングされています。マルチキャストスイッチとルータは、ルーティング決定を行うために、宛先 IP アドレスを使用するためです。 ディレクトリは、すべてのエンコーダに同じポート番号を割り当てますが、スタートマルチキャストアドレスで指定した値で始まる、1 ずつ自分のマルチキャストアドレスをインクリメントします。
ポート	ディレクトリは、すべてのマルチキャストエンコーダに割り当て、共通のポート番号。

ディレクトリ データベース すべての Omnicast の設定が保存されている場所のディレクトリデータベースです。これは、適切に動作するディレクトリを設定する必要があります。

パラメーター	説明
データ サーバ	使用したいデータ・サーバを指定します。すでにデータ・サーバが別のマシンにインストールされている場合を除き、データ・サーバは、典型的には、「 (ローカルにインストールされています (ローカル) \の Omnicast 「) 。クリック  お使いの LAN で利用可能なデータ・サーバのリストを更新します。
データベース	選択 使用したいデータベースインスタンス。データ・サーバは、多くのデータベースインスタンスを管理することができます。インストール時に既存のデータ・サーバを選択しない限り、データベースインスタンス名は DirectorySQL でなければなりません。 コマンドボタンは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">  - 選択したデータ・サーバで使用可能なデータベース・インスタンスのリストを更新します。  - いずれかの既存のデータベース・インスタンスを上書きするか、新しいものを作成します。既存のデータ・サーバを使用することを選択した場合は、新しいデータベースインスタンスを作成する必要があります。  - データサーバから選択されたデータベース・インスタンスを削除します。警告：すべての過去の構成が失われます。  のデータベースのプロパティを表示します。  データベース接続をテストします。見る データベース診断 57 ページ。

注意 リモート・データベース・サーバを使用していて、システム上に複数のアーカイバがある場合は、指定されたデータベースは、各アーカイバ上で一意であることを確認してください。

警報 データベース 選択 **アラームデータベース Omnicast** で「アラームの管理」を有効にします。
この機能を使用するためには、**アラーム管理** オプションはまたあなたの Omnicast ライセンスで有効にする必要があります。見る [ディレクトリオプション](#) 47 ページ。

パラメーター	説明
データ・サーバ	使用したいデータ・サーバを指定します。すでにデータ・サーバが別のマシンにインストールされている場合を除き、データ・サーバは、典型的には、「(ローカルにインストールされています (ローカル) \の Omnicast)」。クリック  お使いの LAN で利用可能なデータ・サーバのリストを更新します。
データベース	選択 使用したいデータベースインスタンス。データ・サーバは、多くのデータベースインスタンスを管理することができます。インストール時に既存のデータ・サーバを選択しない限り、データベースインスタンス名は AlarmSQL でなければなりません。
履歴を保ちます	コマンドボタンと同じです Directory データベース。 アラーム履歴をデータベースに保持されなければならない日数。この値を高く設定する必要があります。デフォルト値は 90 日です。 管理者は、個々のアラームタイプごとに異なる保存期間を設定することができます。アラーム - 設定ツールを参照してください - プロパティ に 187 ページ。





注意 リモート・データベース・サーバを使用していて、システム上に複数のアーカイバがある場合は、指定されたデータベースは、各アーカイバ上で一意であることを確認してください。

データベース 診断

あなたは、サーバ管理、からデータベースのいずれかの接続をテストすることができます **DirectorySQL**、**AlarmSQL**、**VideoArchiveSQL**、**ReportingSQL**、**AuxiliaryArchiveSQL**、および **ObjectStore** データベース。

注意 データベース接続を診断するには、Windows の資格情報を提供する必要があります。

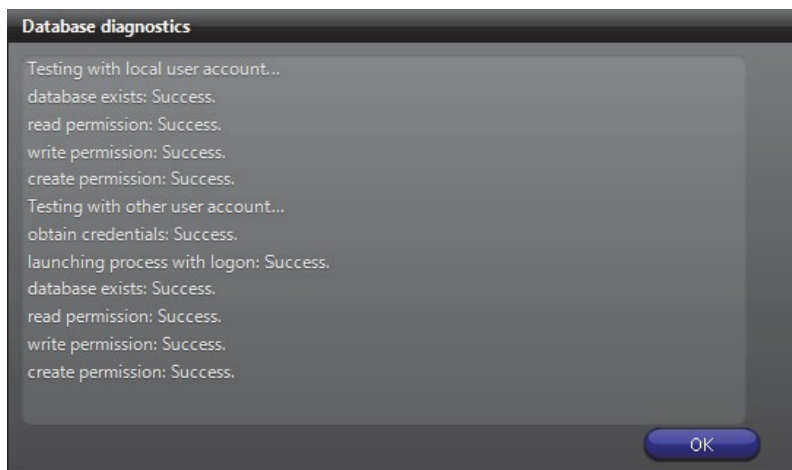
データベース接続をテストするには：

- サーバ管理では、開きます **データベース診断** ダイアログ あなたが診断したいデータベースの箱：
 - **DirectorySQL / AlarmSQL**：の中に **一般的な** のタブ **ディレクトリエンティティ** は、クリックしてください  隣のボタン **データベース** パラメータ。
 - **ReportingSQL**：の中に **ロギング** **ディレクトリエンティティ** のタブをクリックします  ボタン のそばに **データベース** パラメータ。
 - **VideoArchiveSQL**：の中に **アーカイブ** **アーカイバエンティティ** のタブをクリックします  隣のボタン **データベース** パラメータ。
 - **AuxiliaryArchiveSQL**：中 **インクルード** **アーカイブ** **補助アーカイバエンティティ** のタブをクリックします  [次へ] ボタンへ **データベース** パラメータ。
- ザ・Omnicast のサービスの **検証** ダイアログボックスの意志 開いた。
- Windows のユーザ名とパスワードを入力します。
正しいユーザ名とパスワードを入力しなかった場合、診断は実行されません。
- の中に **データベース診断** ダイアログボックス、データベースには 4 つのもののためにテストされます。
 - もしデータベースが存在します
 - ユーザーは、データベース上の権限を読み取った場合

- c ユーザーは、データベースへの書き込み権限を持っている場合

- d ユーザーがサーバー上に新しいデータベースを作成する権限を持っている場合

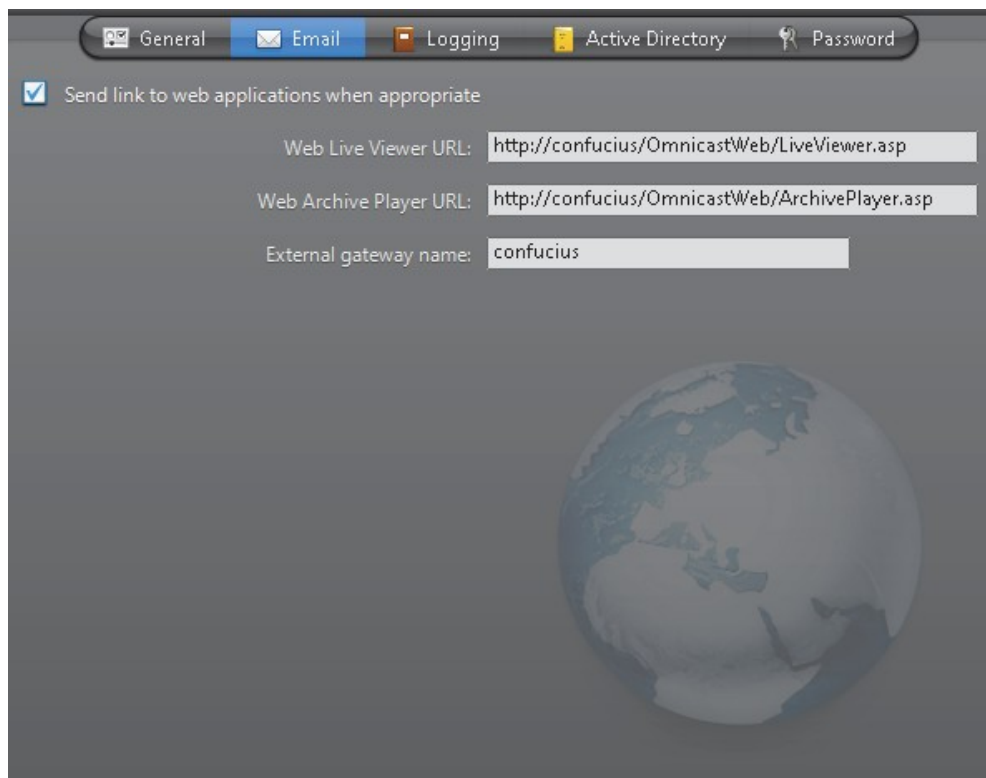
テストが完了すると、各テストが成功した理由又は同意しない理由についての詳細があります。



- 4 クリック [OK]。

E メール

説明 ザ・Eメールタブは、オプションのための動作を設定するために使用されます **メールを送る** アクション。見る [付録B - Omnicast アクションタイプ \(アクション名でソート\) ページ 528](#) に。



Web アプリケーションへのリンクを送信

選択 によって送信された電子メールのメッセージ本文への Web ライブビューアおよび Web アrchiveプレーヤーへのリンクを含めるには、このオプション メールを送る アクションイベントソースがあるとき ビデオエンコーダ。

この機能の目的は、電子メールの受信者に関係なく、彼らを使用するマシンは Omnicast のクライアントがインストールされているかどうかにかかわらず、電子メールの受信時に、すぐにライブビデオやアーカイブされたビデオを閲覧できるようにすることです。

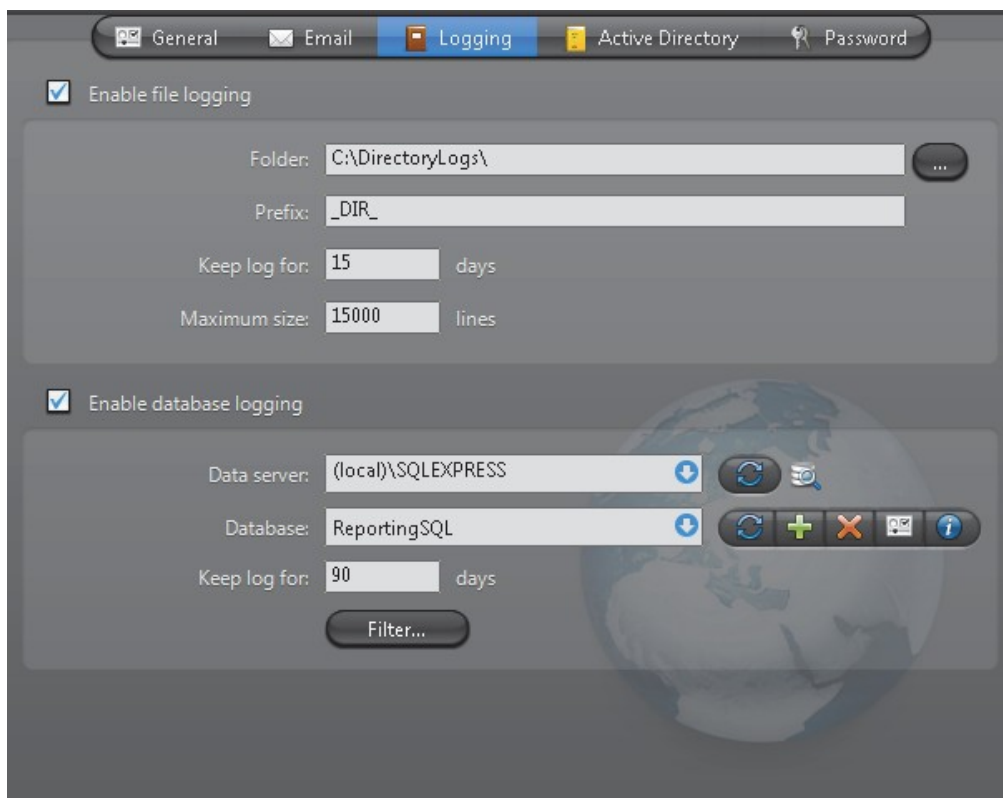
この機能を使用するには、Web クライアントのオプションは、あなたの Omnicast ライセンスで有効にする必要があります（参照 [ディレクトリオプション 47](#) ページ）に、メールサーバーは、ディレクトリサーバ上で設定する必要があります（参照 [SMTP 53](#) ページ）、および以下のパラメータを設定する必要があります。

パラメーター	説明
ウェブライブビューア URL	ウェブライブビューアの Web アドレス。 そうすべき ASP ページへのポイント "LiveViewer.asp"。
Web アrchiveプレーヤー URL	Web アrchive Player の Web アドレス。 そうすべき ASP ページへのポイント "ArchivePlayer.asp"。
外部ゲートウェイ名	ゲートウェイがインストールされているマシン名。

ロギング

説明

ザ・ロギング タブには、すべてのシステムイベントのロギングを設定するために使用されます。見る [付録A : Omnicast のイベント](#) ページ 508 に。








二つのロギングメソッド ご利用いただけます：


- ファイルのログ
- データベース・ロギング

ファイルのログ 選択 **ファイルのログを有効** ディスク上のすべてのシステムイベントのコピーを保持します。ログファイルが含まれています<タブ> 彼らは簡単にメモ帳や Excel で表示できるように値を分離しました。

パラメーター	説明
フォルダ	ログファイルの場所。
接頭辞	ログ・ファイル名に使用するプレフィックス。ファイル名は、3 桁のシーケンス番号に続く日付 (YYYY-MM-DD)、続いて接頭辞、からなります。 例： "_DIR_2007-09-11_000.log" 。
ログを保管してくださいのために	日ログファイルの数は、オンラインで保たれるべきです。
最大サイズ	各ログファイルに含めることができる行の最大数。指定された最大値に達すると、ディレクトリは、新しいファイルを開きます。

データベース・ロギング 選択 **データベースログを有効** に リレーショナルデータベースで選択したシステムイベントをログに記録します。データベースのログは、レポートビューアで表示されます。ツールをお読みください - [レポートビューア](#) ページ 490 上の標準レポートが利用可能であることを調べるします。

パラメーター	説明 (1/2)
データ サーバ	使用したいデータ・サーバを指定します。すでにデータ・サーバが別のマシンにインストールされている場合を除き、データ・サーバは、典型的には、「 (ローカルにインストールされています (ローカル) から [SQLExpress 「])。クリック  お使いの LAN で利用可能なデータ・サーバのリストを更新します。
データベース	<p>選択 使用したいデータベースインスタンス。データ・サーバは、多くのデータベースインスタンスを管理することができます。インストール時に既存のデータ・サーバを選択しない限り、データベースインスタンス名は ReportingSQL でなければなりません。</p> <p>コマンドボタンは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  - 選択したデータ・サーバで使用可能なデータベース・インスタンスのリストを更新します。 •  - いずれかの既存のデータベース・インスタンスを上書きするか、新しいものを作成します。既存のデータ・サーバを使用することを選択した場合は、新しいデータベースインスタンスを作成する必要がありません。 •  - データサーバから選択されたデータベース・インスタンスを削除します。 •  - このデータベースのプロパティを表示します。

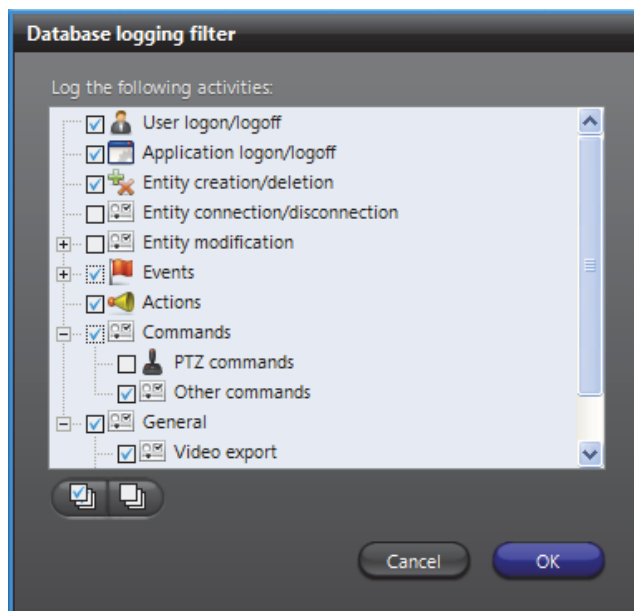
-  - データベース接続をテストします。見るデータベース診断 57 ページ。
-

パラメーター

説明 (2/2)

ログを保管してくださいのために 数日のログエントリがデータベースに保持されなければなりません。

フィルタ クリック [フィルタ]ボタンは、データベースに記録されなければならないイベントのカテゴリを選択します。次のダイアログが表示されます。



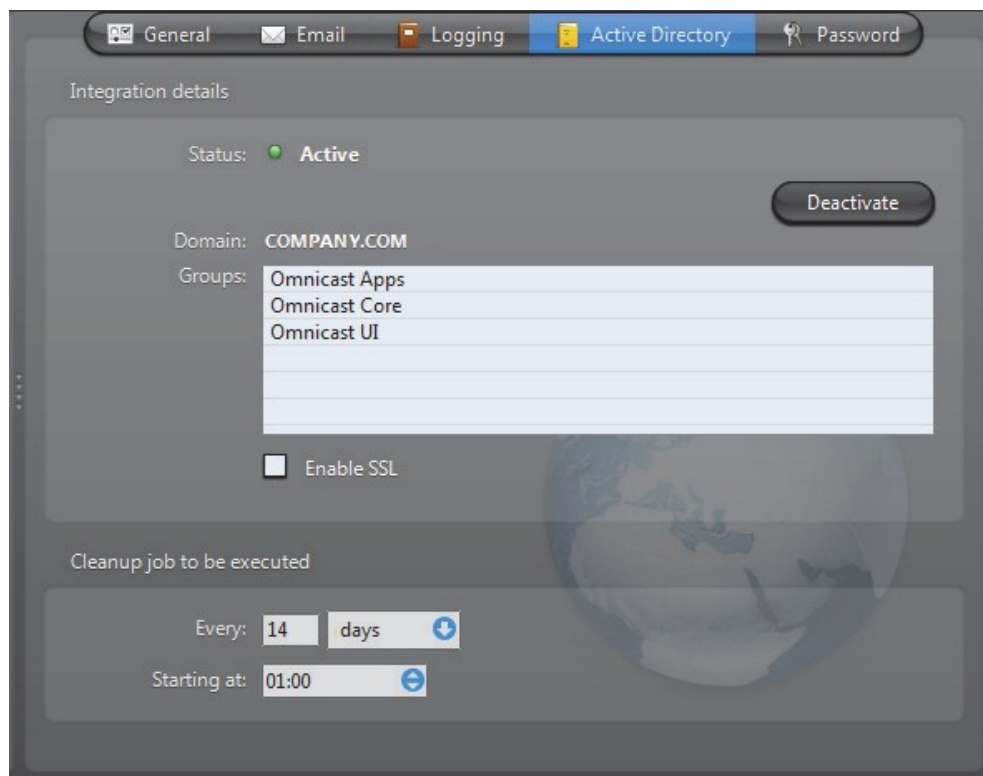
その変更ログに記録されるべき個々のエンティティタイプを選択するには、エンティティの変更]ノードを展開します。

注意 リモート・データベース・サーバを使用していて、システム上に複数のアーカイバがある場合は、指定されたデータベースは、各アーカイバ上で一意であることを確認してください

Active Directory の

説明

ザ・アクティブディレクトリタブには、ことができます Windows には Omnicast のユーザー管理を統合します Active Directory の。



Windows の Active Directory への Omnicast を統合する目的は、組織内で統一されたユーザー管理システムを持っているし、初期の Omnicast のセットアップを簡素化することです。システム管理者は、の Omnicast のユーザーとユーザーグループとして Active Directory で定義されたユーザーのいずれかのグループをインポートすることができます。

Active Directory が有効になると、のみインポートされたユーザーは、の Omnicast アプリケーションを実行することができるようになります。

注意 これに対する例外 ルールは、ユーザーの管理者とユーザーグループ管理者です。これらの 2つのシステムのエンティティはの Omnicast の唯一の管理下に残ります。必ず管理者ユーザーのパスワードを保護します。

限り Omnicast が Active Directory に統合されているように、ユーザーとユーザーグループの作成と削除は、すべての Windows の Active Directory ユーザーとコンピュータ]管理ツールを使用して処理する必要があります。パスワードや電子メールアドレスは、Active Directory の下で管理されます。Omnicast は、設定ツールを参照してください (などの権限、特権、として、の Omnicast に固有のプロパティを管理していきます - ユーザー ページ 418 上)。

Active Directory から削除されたユーザーは、の Omnicast からすぐに削除されません。ただし、接続権限の拒否は、すぐに効果的です。ユーザープロファイルは、次のクリーンアップジョブの実行中に削除されます。クリーンアップ操作をスピードアップするために、

Omnicast の管理者がユーザープロファイルを削除することが許可されています。削除されたユーザーが Active Directory にまだアクティブである場合、それはの Omnicast に次回ユーザーがログオンするときに再作成されます。

警告 前に Active Directory で発見されていない統合への Omnicast で定義されたすべてのユーザーおよびユーザーグループが削除されます。

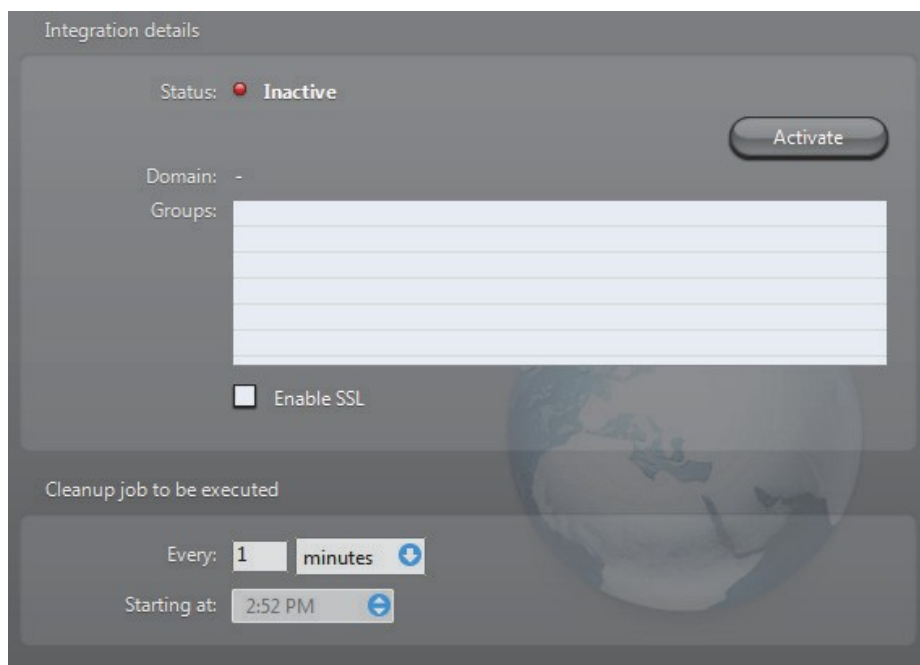
エンドユーザーのための潜在的な利点は、彼らはもはや自分のユーザー名とパスワードを入力するために、彼らは Omnicast のアプリケーションを起動するたびに必要があるということではありません。

有効にします アクティブ

ディレクトリ

Active Directory を有効にするには：

- 1 Active Directory が現在非アクティブであると仮定すると。

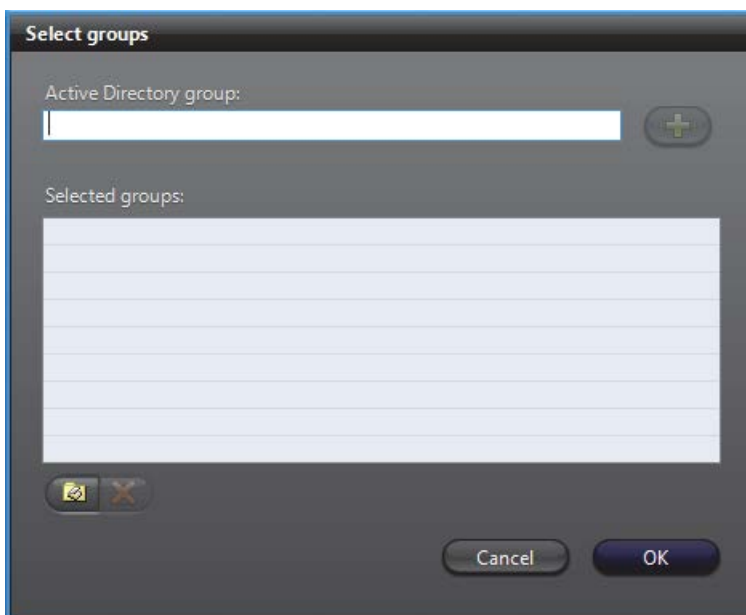


- 2 やめる ディレクトリサービス。


ディレクトリは、フェイルオーバー・システムの一部である場合は、ディレクトリを停止することができます前に、あなたは最初のディレクトリのフェイルオーバー・コーディネーター (DFC) を停止する必要があります。そうでない場合、DFC は自動的にディレクトリサービスにあなたがそれを停止しようとするたびに再起動されます。

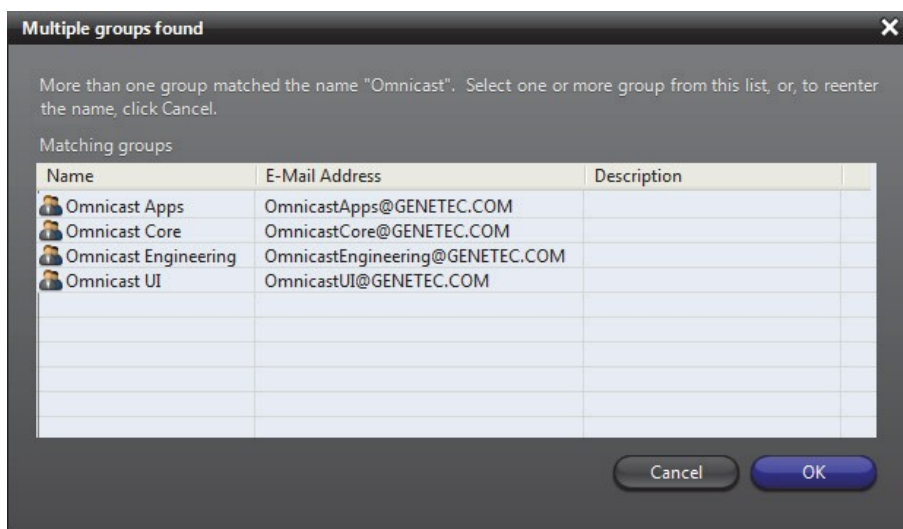
あなたが 1 台の Directory サーバー上の Active Directory 統合を有効にした場合、あなたも同じフェイルオーバー構成の一部であるすべてのディレクトリサーバー上で、それを有効にする必要があります。


- 3 Activate ボタンをクリックします。あなたが Omnicast に追加する Active Directory グループを選択するように求められます。

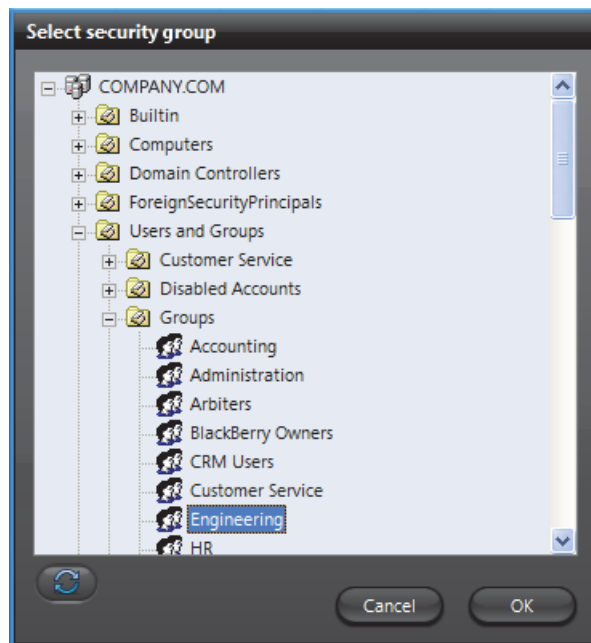


唯一の Active Directory セキュリティグループは Omnicast のに加えてもよい必要な数のグループを追加することができます。

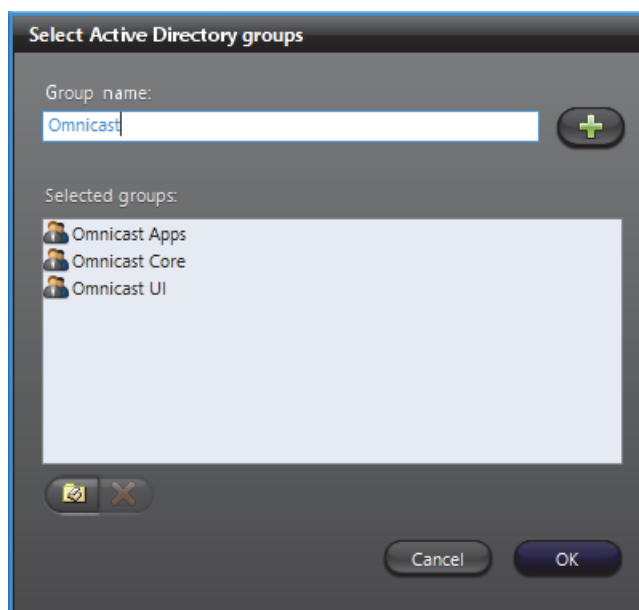
- 4 あなたが追加したいグループの名前を知っている場合は、その名前を入力 。複数の一致が見つかった場合、あなたがしたいグループを選択する必要があります。



- 5 あなたが心でグループ名がわからない場合は、クリックしてください  Active Directory のコンテンツを閲覧するためのボタン。唯一のグループは、このダイアログボックスから選択することができます。

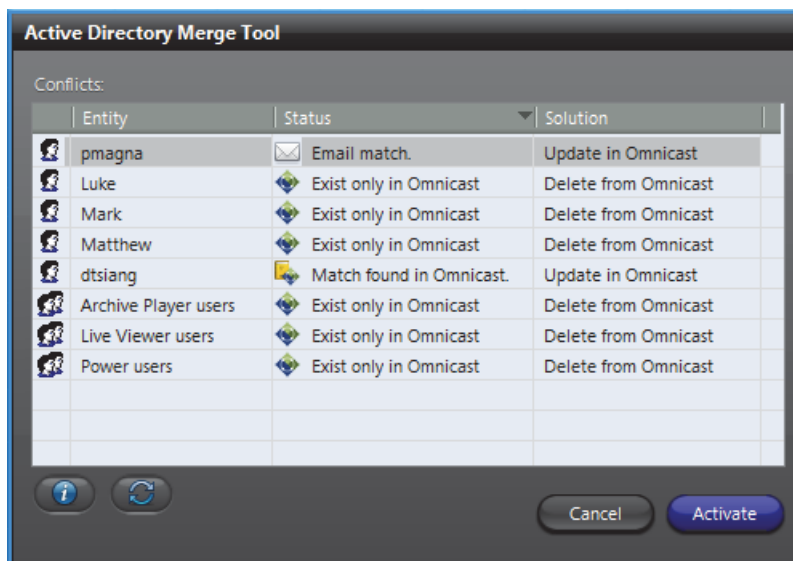


- 6 リストにあなたの選択を追加するには、[OK]をクリックします。
ステップ 4 ステップへ 5 必要に応じて何度でも繰り返すことができます。




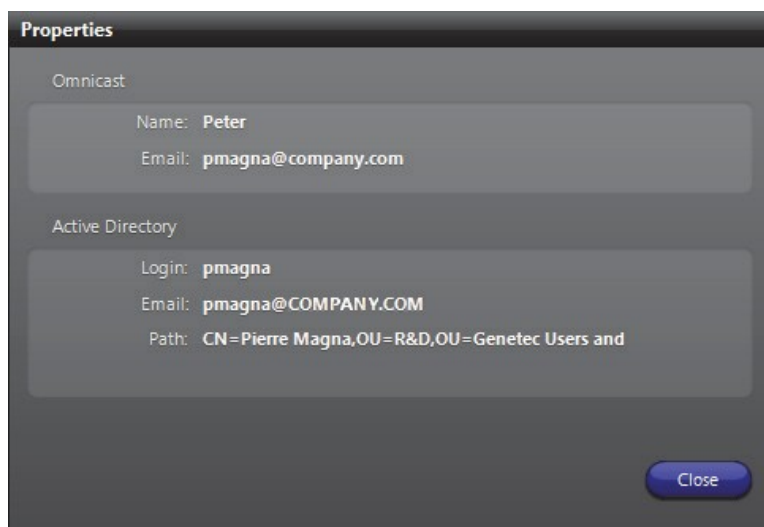
- 7 あなたが欲しいすべてのセキュリティグループを選択したら、[OK]をクリックします。

アプリケーションは、現在の Active Directory にあるものでは Omnicast で定義されているものと比較を開始します。比較が終了すると、以下のダイアログが見つかりました。すべての競合を示す、表示されます。



紛争の3つのタイプがあります。

- **ユーザー名が一致** - この問題が発生した場合には、パスワードや電子メールアドレスは、Active Directory で見つかった情報に置き換えられます。（そのような権限や特権など）他のすべてのユーザープロパティが保持されます。
 - **電子メールの一致** - この問題が発生した場合には、ユーザ名とメールアドレスは、Active Directory で見つかった情報に置き換えられます。（そのような権限や特権など）他のすべてのユーザープロパティが保持されます。
 - **唯一の Omnicast に存在します** - これは、マージツールは、Active Directory 内の Omnicast のユーザーまたはユーザーグループの一致を見つけることができないときです。これが起こるとき、の Omnicast エンティティが削除されます。
- 8 クリック  ンクルード ボタン 任意の選択された紛争についての詳細を表示します。



- 9 Active Directory の同期を続行するには、Active Directory のマージツール]ダイアログボックスで **Activate** をクリックしてください。

警告 この操作は元に戻せません。Omicast で発見されていないすべてのユーザーおよびユーザーグループが作成されます。Active Directory で一致していないすべてのユーザーおよびユーザーグループが削除されます。

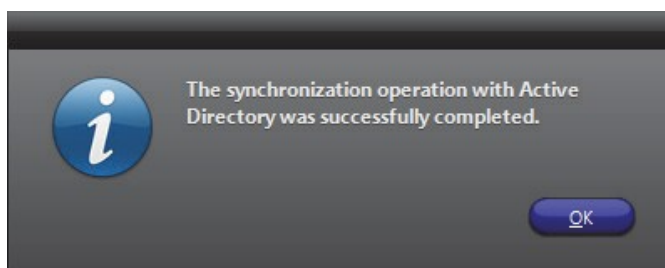
- 10 次に、選択したグループに含まれるユーザーをインポートするかどうかを決定するように求められます。

すぐに新しいユーザーを作成するには、**Yes** と答えます。あなたは **Active Directory** からユーザーの非常に多くをインポートする場合、プロセスはかなりの時間を取ることができます。

長い待ち時間を避けるために、何が上記の質問に答えていません。新しいユーザーは、実行時に作成されます。このアプローチの欠点は、各ユーザーが初めてログオンしたときに自分のプロフィールにのみ作成されますので、事前に各ユーザーの特性を設定することができないということです。

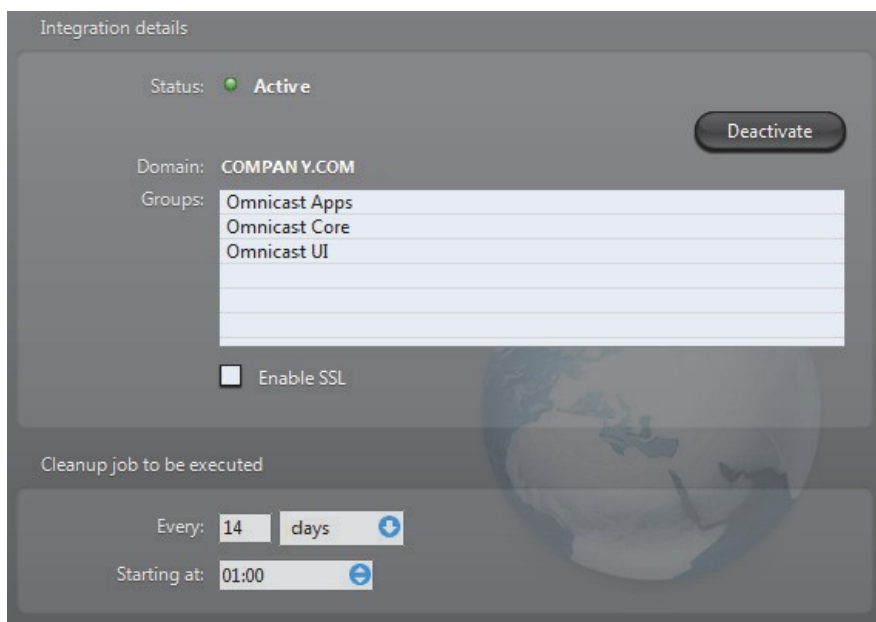
しかし、**Active Directory** からインポートされたユーザーグループは、あなたの共有有価証券のコントロールのいくつかのレベルを与え、すぐに作成されます。

- 11 統合が完了すると、ステータスメッセージが表示されます。



- 12 このメッセージを確認するには、[OK]をクリックします。

- 13 選択したセキュリティグループの名前だけでなく、ドメイン名が表示されます。



これで、クリーンアップジョブを設定する必要があります。クリーンアップジョブは、それらが **Active Directory** から削除されたときの **Omnicast** から廃止されたユーザーを削除するために使用されます。ジョブ頻度を分単位で設定されている場合、開始時刻が無効にされ、無視されることに注意してください。

- 14 あなたがディレクトリを再起動する前に、そのサービスのログオンユーザーは、ドメインユーザーに変更する必要があります。

なお、デフォルトのユーザー」。 \OmnicastSvcUsr「の **Omnicast** で作成 **Server** のインストールには、ローカルユーザーです。 **Active Directory** にアクセスすることはできません。これは、 **Active Directory** にアクセスするための権限を持つドメインユーザーに変更する必要があります。

DFC が使用されている場合は、そのユーザーがディレクトリと同じドメインのユーザーに変更する必要があります。

見る [ディレクトリサービスのログオンユーザーを変更します](#) 68 ページ。

- 15 ユーザ管理設定を完了するには、設定ツールを開き、 **Active Directory** からインポートされたすべての新しいエンティティのアクセス権と権限を設定します。

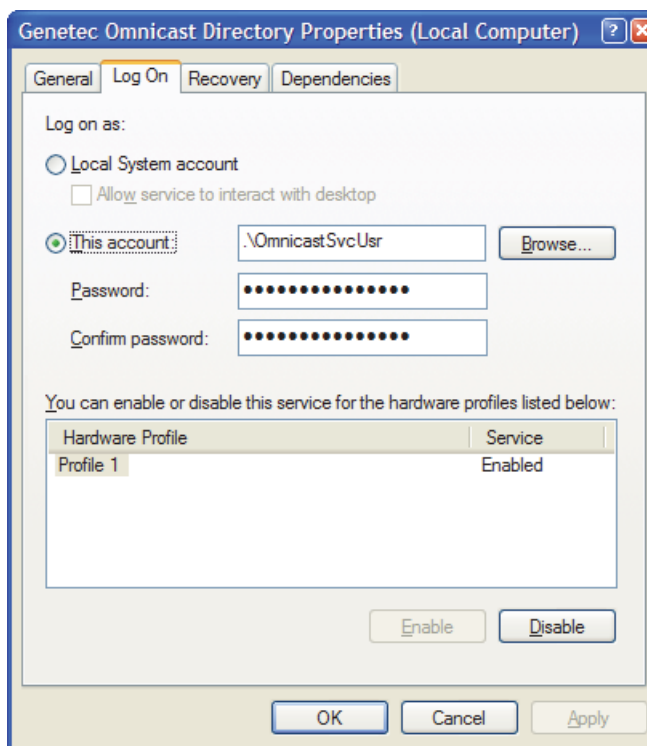
セキュリティグループは、フラット構造として輸入されていると、 **Active Directory** 内の構造を反映しません。手動で設定ツールを使用して、所望のグループ階層を再作成する必要があります。

あなたが設定できるパラメータの詳細については、お読みください [ユーザー](#) ページ 418 のと [ユーザー・グループ](#) ページ 445 に。

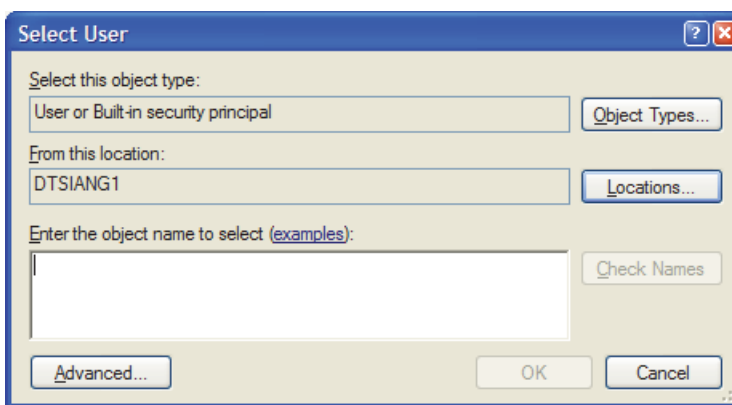
ディレクトリ の変更 サービス ログオン ユーザー

- 1 ディレクトリサービスのログオンユーザーを変更するには、次の操作を行います。
- 2 Windows で services.msc と開きます。
- 3 の中に サービス ダイアログボックス、見つけます **ゼネテックの Omnicast ディレクトリ**。このサービスが停止されなければならないことに注意してください。

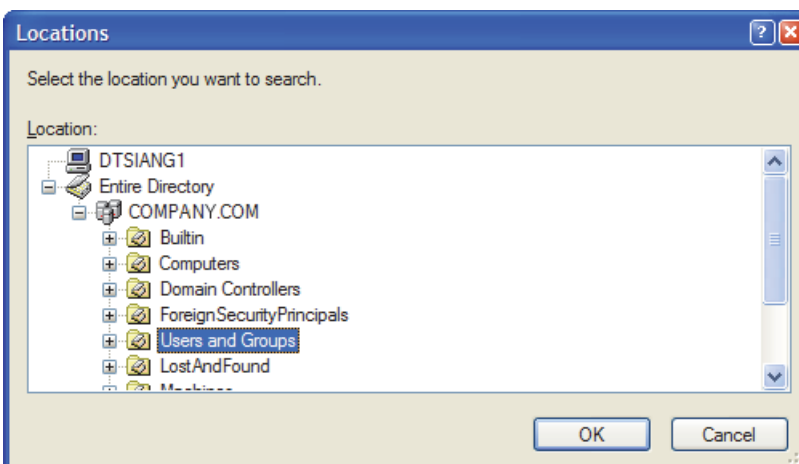
- 4 それをダブルクリックして、[ログオン]タブを選択します。あなたが
Omnicast に追加する Active Directory グループを選択するように求められます。



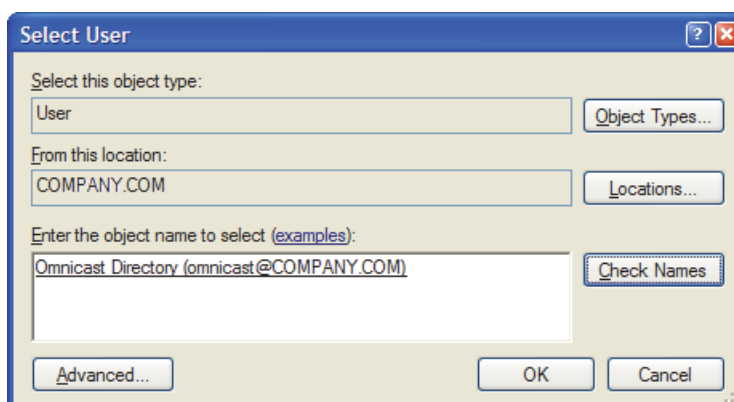
- 5 ドメインユーザを選択するには、[参照]ボタンをクリックします。



- Active Directory ののドメインにローカルマシンから場所を変更する場所]ボタンをクリックします。



- ドメインのユーザー名を入力し、名前を検証するために名前を確認]をクリックします。



我々 あなたは Omnicast のディレクトリのログオンユーザーとして新しいドメインユーザーを作成することをお勧めします。このユーザーは、選択したベース・グループのメンバーであるユーザーとユーザーグループの情報を読み取るための権限を持っている必要があります。

- システムは、あなたがしたいユーザーを見つけたら、[OK]をクリックします。

重要 ディレクトリサービスのログオンユーザーは、対話型ログオン権限を持っている必要があります。

- 新たに選択したユーザーのパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

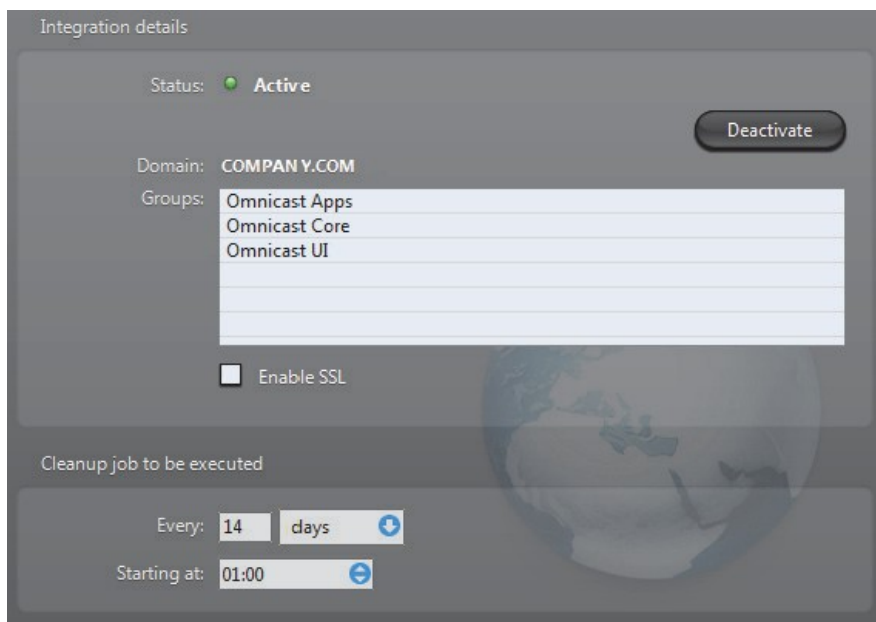
- 再起動 インクルード **ゼネテックの Omnicast ディレクトリ サービス**。

有効にします SSL SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを有効にするには、このオプションを選択します。このオプションを有効にすると、の Omnicast と Active Directory ドメインコントローラ間のすべての通信は、SSL プロトコルを使用します。このオプションはデフォルトで無効にされ、および Active Directory ドメインコントローラが SSL をサポートするように設定する必要があります。

無効にします アクティブ ディレクトリ

Active Directory を無効にするには、次の操作を行います。

- 1 Active Directory が現在アクティブであると仮定すると。



- 2 やめる ディレクトリサービス。

ディレクトリは、フェイルオーバー・システムの一部である場合は、ディレクトリを停止することができます前に、あなたは最初のディレクトリのフェイルオーバー・コーディネーター (DFC) を停止する必要があります。そうでない場合、DFC は自動的にディレクトリサービスにあなたがそれを停止しようとするたびに再起動されます。

- 3 クリック **非アクティブ化** ボタン。

あなたはあなたに次のことを伝える警告メッセージが表示されます。

- Active Directory が解除された後、Active Directory との統合の結果としての Omnicast で作成されたすべての新しいユーザーがシステムに残ります。自分のパスワードは、Active Directory で管理されていたので、これらの新しいユーザーは Omnicast の下にはパスワードが設定されていません。これは、誰もがこれらの新しいユーザー名のいずれかを使用してシステムにログオンできることを意味します。

セキュリティリスクを軽減するために、すぐにすべての新規ユーザーにパスワードを割り当てます。これは一時的な措置である場合は、あなたが変更を行っている間に、このディレクトリへの接続から誰を防ぐために、ゲートウェイサービスを停止します。

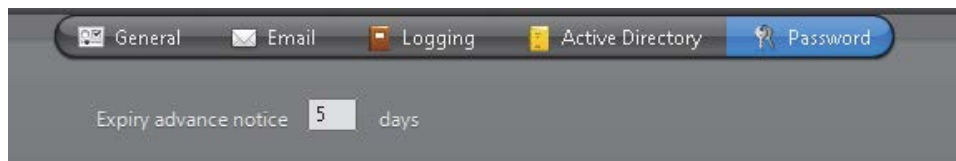
- ユーザー名またはメールアドレスのいずれかによって、Active Directory ユーザーにマージされたすべての Omnicast のユーザーは、自分の古いパスワードが復元されます。

- 4 変更を続行するには、[はい]をクリックします。
- 5 再起動 停止後のディレクトリサービスは完了です。

パスワード

説明

ザ・パスワードタブでは、設定することができますパスワードの有効期限予告。



この設定では、あなたのサーバ管理用パスワードの有効期限が切れる n 日前に通知されることを保証します。デフォルト値は 7 日、最大値は 30 です。

注意 あなたの変更を適用するには、ディレクトリサービスを再起動する必要があります。

ディレクトリのフェイルオーバー・コーディネーター

前書き

上のインストールされたサービスであります



ディレクトリのフェイルオーバー・コーディネーター (DFC) は、ホスティングすべてのサーバー・マシンディレクトリ失敗プルーフシステムに関連して、後者の連続性を保証するためのサービス。

DFC は、2つの主要な機能を実行します。ディレクトリサービスが待機している間、(1) ローカルディレクトリとアラームを維持する最新のデータベース。それがあるとき (2) ローカルディレクトリサービスを開始または停止
適切な 基づいて、そうします フェールオーバーリスト。

コンフィギュレーション

一般的な 設定



選択 ディレクトリのフェイルオーバー・コーディネーター リソースツリーからその一般的な設定が表示されます。

設定可能なパラメータは、以下に記載されています。

パラメーター	説明 (1/2)
ゲートウェイ	の名前 インクルード ゲートウェイ DFC は、プライマリディレクトリに接続するために使用しなければならないということ。ディレクトリフェールオーバーリストがまだ設定されていない場合に、サービスはその存在を報告するためにこの情報が必要です。
ネットワーク カード	選択 ネットワークカードは、お使いのマシンが複数のネットワークカードが装備されている場合 Directory との通信に使用されます。

着信 TCP コ
マンド

DFC サービスは、着信クライアント接続をリッスンする TCP ポート。

パラメーター	説明 (2/2)
Ping の 期間	そのディレクトリサービスのための周波数で DFC の ping を実行。
パスワード	<p>同期のデータベースを維持するためには、DFC サービスは、定期的にお互いに話をしなければなりません。</p> <p>2 つ以上の独立の Omnicast システムが同じネットワーク上にインストールされているまれな状況で、あなたは彼らが間違っただピアに話をしないように異なるパスワードを持つ別のフェイルオーバーシステムに属しているの DFC を特定する必要があります。</p> <p>新しいパスワードを設定するか、をクリックして、パスワードを変更します  ボタン。</p> <p>あなたは、確認のため同じパスワードを 2 回入力する必要があります。</p> <p>クリック  パスワードをクリア。</p>
<input checked="" type="checkbox"/> エンティティの複製を有効にします	<p>DFC が同期エンティティ構成テーブルを保持しなければならない場合は、このオプションを選択します。二次 Directory サーバーがプライマリサーバーと同じデータベースを共有する場合、このオプションを無効にする必要があります。見る Directory データベース 56 ページ。</p>
<input checked="" type="checkbox"/> アラームのレプリケーションを有効にします	<p>DFC が同期アラームデータベースのテーブルを保持しなければならない場合は、このオプションを選択します。二次 Directory サーバーがプライマリサーバーと同じデータベースを共有する場合、このオプションを無効にする必要があります。見る アラームデータベース 56 ページ。</p> <p>アラームは、システム内の非常に高いペースで発生しているいくつかのまれなケースでは、パフォーマンスのために AlarmSQL データベースを同期しないことをお勧めすることができます。</p> <p>もし、あんたが あなたが設定ツールで手動でデータベースを同期させることができ、このような状況です。見る 手動同期 309 ページで。</p>

ゲートウェイ





前書き



ゲートウェイは関係なく、それらが同じ LAN 上に配置されているか否かと、与えられたの Omnicast システム内のすべてのアプリケーション間のシームレスな接続を提供するサービスです。ゲートウェイはへの玄関口として機能しますディレクトリ すべての Omnicast アプリケーションのため。複数のゲートウェイは、サービスの可用性を高めるために、ロードバランシングを提供するために、大規模の Omnicast システムにインストールすることができます。

ゲートウェイの複数のインスタンスが同じシステム上で実行することができるが、それらの使用はで付与する必要があります **ゲートウェイの数** あなたの Omnicast ライセンスの。見る [ディレクトリオプション 47](#) ページ。

ゲートウェイのローカル設定は、次のタブにあります。

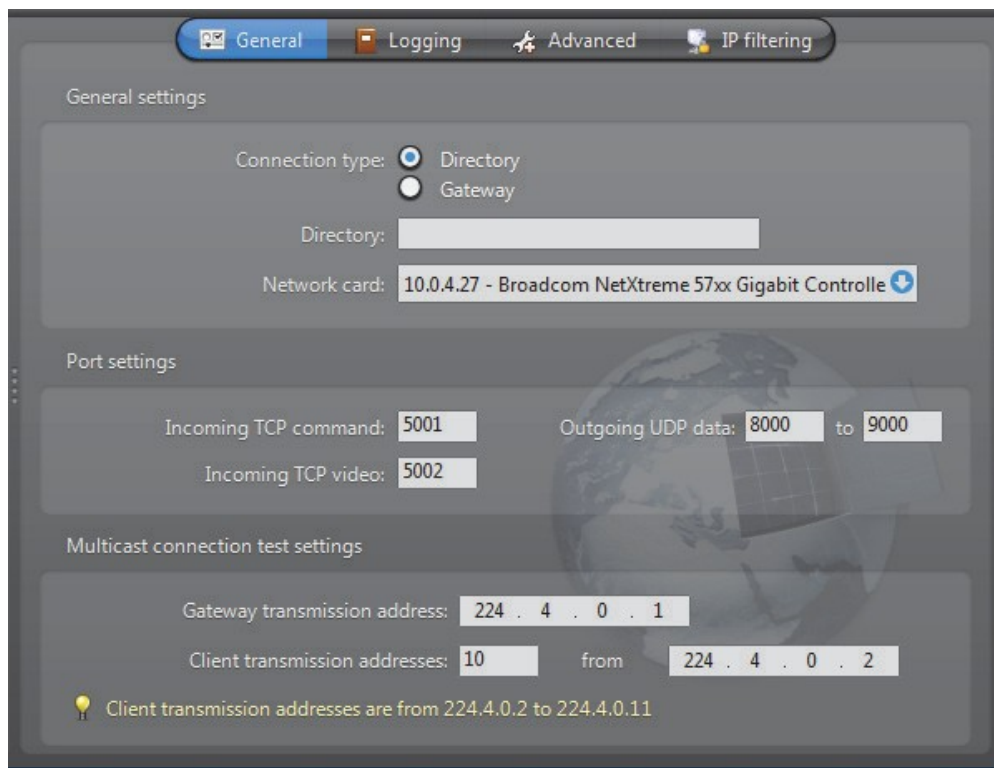
アイ	タブ	説明
	一般的な	基本的な ゲートウェイの設定。
	ロギング	ログの設定（フォルダ、クリーンアップ、など）。
	高度	詳細設定は、（有資格の Omnicast のサポートエンジニアの指示に従ってのみ変更します）。
	IP フィルタリング	指定された IP アドレス、ポート、およびタイプへのクライアント接続を制限します。

このサーバーアプリケーションのマシンに依存しないパラメータは、設定ツールで構成されています。見る [ゲートウェイ ページ 319](#) に。

一般的な

説明

この一般的なタブには、ゲートウェイの基本設定を設定するために使用されます。



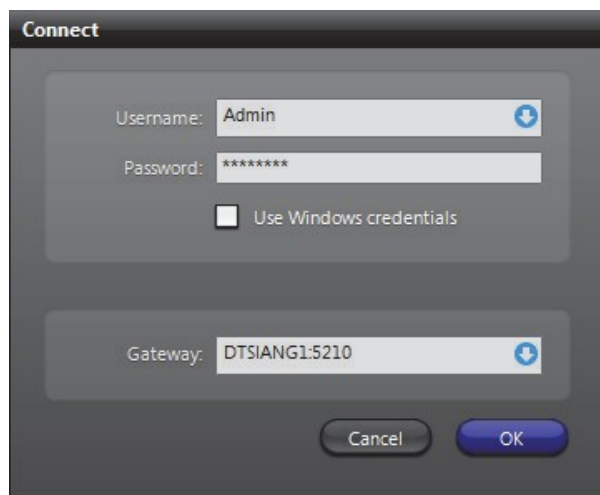
一般的な設定

ゲートウェイの一般設定。

パラメーター	説明
接続タイプ	あなたは（インターネットを使用して）別のゲートウェイを介したディレクトリ（LANを使用して）、または間接的に直接ゲートウェイを接続するための選択肢を持っています。
ディレクトリ/ゲートウェイ	このフィールド名はあなたの選択に応じて異なります 接続タイプ。 <ul style="list-style-type: none"> ● ディレクトリ - ディレクトリとゲートウェイが同じ PC にインストールされている場合は、このフィールドを空白のままにします。示します Directory ポート それはデフォルト値（7998）と異なる場合。見る 一般設定 56 ページ。 ● ゲートウェイ - 別のゲートウェイを介して接続する場合、リモートゲートウェイの名前を指定しなければなりません。リモートゲートウェイがプライマリディレクトリに直接接続するものでなければならないことに注意してください。それはデフォルト値（5001）と異なる場合、その着信 TCP コマンドポートを示しています。
ネットワークカード	お使いのマシンが複数のネットワークカードが装備されている場合の Omnicast に使用するネットワークカードを選択します。

ポート設定 ゲートウェイのための様々なポートの設定。

パラメーター	説明
着信 TCP コマンド	<p>ポートは、クライアントの接続要求としての着信 TCP コマンドに使用しました。</p> <p>Omnicast で使用されるデフォルトの接続ポートを使用すると、別のポート番号を選択した場合は、ユーザーが明示的に[接続]ダイアログで指定する必要があります 5001 です。以下の例を参照してください。</p>



異なる TCP コマンドポートは時にいくつかの特定のクライアントで使用することができます IP フィルタリング 有効になっています。見る [IP フィルタリング 81](#) ページ。

着信 TCP ビデオ ポートは着信 TCP ビデオ接続をリスンするために使用しました。ゲートウェイがファイアウォールの背後で実行されている場合、このポートは、TCP 接続のインバウンドパケットのためにロック解除されていることを確認してください。

発信 UPD データ UDP を使用してビデオを送信するためにゲートウェイが使用するポートの範囲。第 1 のポート番号は、ユニキャスト接続をゲートウェイとリモートクライアントとの間でサポートされている場合、すなわち決定するために、検出ポートとして使用されます。ゲートウェイがファイアウォールの背後で実行されている場合、これらのポートは UDP 接続用のインバウンドパケットのためにロック解除されていることを確認してください。

マルチキャスト 接続 テスト 設定

にゲートウェイ、ゲートウェイの別のクライアントからの送信を受信するためのマルチキャスト伝送を受信するためのクライアントのために 1: クライアントとマルチキャストの接続性をテストするためには、ゲートウェイは 2 つの IP アドレスを指定します。

ゲートウェイは、それが接続しているクライアントに順番に割り当てられたクライアントの送信のためのアドレスのプールを使用しています。複数のクライアントの送信アドレスを使用すると、ゲートウェイが再起動する場合は特に、輻輳制御を回避できます。

クライアント接続を処理中に、ゲートウェイは、クライアントでサポートされているすべての接続タイプ (マルチキャスト、ユニキャスト UDP、ユニキャスト TCP) を検出します。

接続テストパラメータは次のとおりです。

パラメーター	説明
ゲートウェイ送信アドレス	接続テスト中に、クライアントアプリケーションにマルチキャストパケットを送信するためにゲートウェイが使用する IP アドレス。
クライアント送信アドレス	クライアントからのマルチキャスト伝送を受信するために使用される IP アドレスのプール。あなたは、開始アドレスとあなたがプールに予約したいアドレスの数を指定する必要があります。アドレスの得られた範囲は、コメントとして示されます。

もしゲートウェイがファイアウォールの背後で実行され、ゲートウェイポートのロックを解除してください。以下のファイアウォールのルールが適用されるべきです：

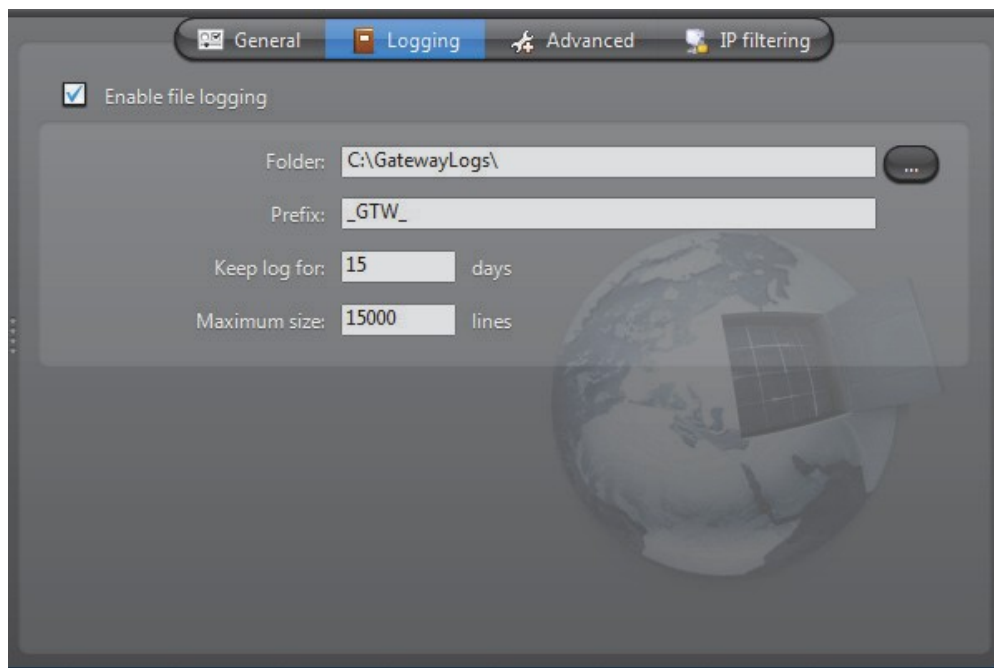
ポート	プロトコル	方向
TCP コマンドポート	TCP	インバウンド
TCP のビデオポート	TCP	インバウンド
UDP のビデオポート	UDP	インバウンド/アウトバウンド

注意 ゲートウェイのマルチキャストテストアドレス クライアントまたはサービスアプリケーションはマルチキャストをブロックしているルータの背後から接続された複数のゲートウェイシステム上で一意でなければなりません。マルチキャストテストアドレスが一意でない場合、ゲートウェイは、誤ってマルチキャスト送信を検出し、ルータの背後にあるクライアントアプリケーションによって要求されたビデオストリームをリダイレクトされません。

ロギング

説明

ザ・ロギングタブでは、ゲートウェイのロギングを設定できます。



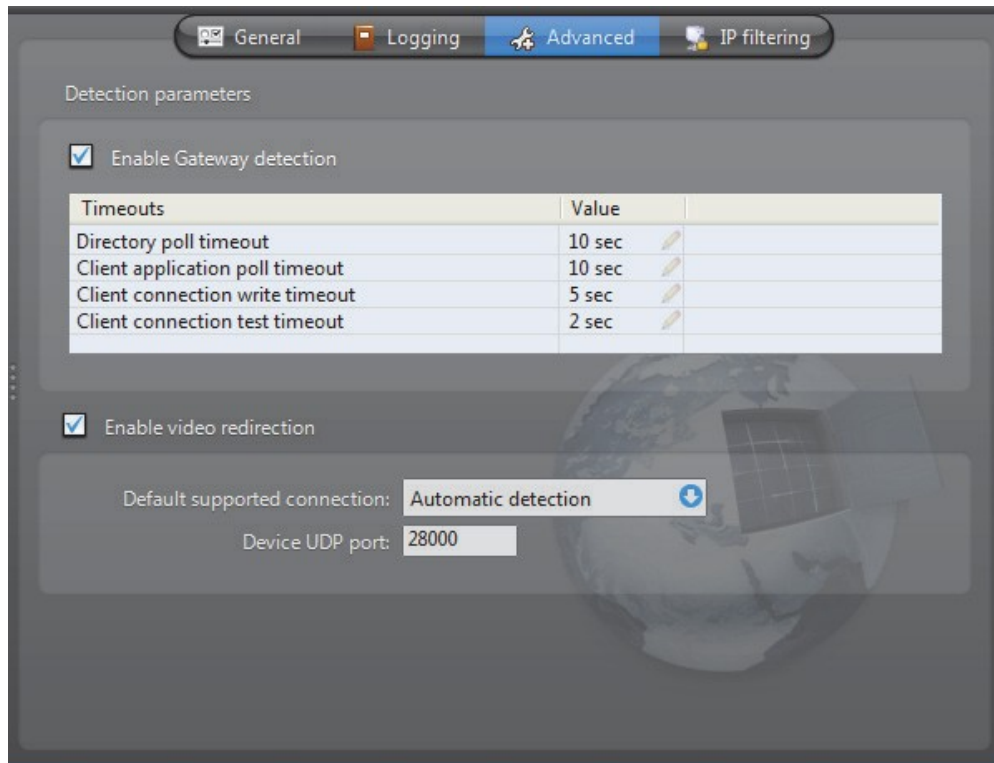
ファイルのログ 選択 **ファイルのログを有効** ディスク上のすべてのゲートウェイのイベントのコピーを保持します。ログファイルが含まれています<タブ> 彼らは簡単にメモ帳や Excel で表示できるように値を分離しました。

パラメーター	説明
フォルダ	ログファイルの場所。
接頭辞	ログ・ファイル名に使用するプレフィックス。ファイル名は、3桁のシーケンス番号に続く日付 (YYYY-MM-DD)、続いて接頭辞、からなります。 例: "_GTW_2007-11-14_000.log"。
ログを保管してくださいのために	日ログファイルの数は、オンラインで保たれるべきです。
最大サイズ	各ログファイルに含めることができる行の最大数。指定された最大値に達すると、ゲートウェイは、新しいファイルを開きます。

高度

説明

[詳細設定]タブではめったに使われないパラメータが含まれています。特に資格の Omnicast テクニカルサポートエンジニアの指示がない限り、このタブの設定は、エンドユーザーによって変更すべきではありません。



検出 パラメーター

選択 **ゲートウェイの検出を有効にします** ローカルゲートウェイが他のゲートウェイと同じ LAN 上で実行されているかどうかをテストすることができますようにします。このオプションは無効にするべきではありません。以下は、設定可能なタイムアウト値です。

タイムアウト 値	説明
ディレクトリの世論調査 タイムアウトポーリング間隔	ディレクトリがまだあることを確認するために使用します オンライン。10 秒が推奨値です。
クライアントアプリケーションのポーリングのタイムアウト	ポーリング間隔は、クライアントがまだオンラインであることを確認するために使用します。10 秒が推奨値です。
クライアント接続の書き込みタイムアウト	クライアントに送信されたコマンドのために使用されるタイムアウト。5 秒が推奨値です。
クライアント接続テストのタイムアウト	タイムアウトは、クライアントとの接続をテストするために使用されます。2 秒が推奨値です。

ビデオリダイレクション 選択 ビデオリダイレクションを有効にします。ゲートウェイは、ビデオストリームをリダイレクトできるようにします。このオプションは無効にするべきではありません。

パラメーター	説明
デフォルトサポート接続	管理者は、特定の状況下で、ビデオリダイレクションの特定の種類を強制することができます。例えば、あなたのネットワークがマルチキャストをサポートしていない場合は、ユニキャスト UDP を選択する必要があります。通常、この設定は自動検出に設定されています。
デバイスの UDP ポート	UDP のリダイレクト用のポート番号を開始します。

IP フィルタリング

説明 IP フィルタリング]タブでは、特定の IP アドレスのリストへのクライアント接続を制限することができます。また、デフォルトとは異なる着信 TCP コマンドポートを課し、特定の接続の種類を強制することができます。

Default parameters

Incoming TCP command: 5001
Default supported connection: Automatic detection

Enable IP filtering

IP address	Incoming TCP command	Supported connections
10.25.3.1 to 10.25.3.255	Default	Default supported connection
10.25.3.200	5003	Multicast
10.25.3.100	5004	Unicast UDP

When IP filtering is enabled, all connections are denied by default


デフォルト パラメーター これらは、他の設定タブで設定したパラメータです。

パラメーター	説明
着信 TCP コマンド な	に設定された着信 TCP コマンドポートをデフォルト 一般的 タブ。見る ポート設定 77 ページ。
デフォルトサポ ート 接続	デフォルトでは、接続タイプがに設定されているサポート 高度 タブ。見る ビデオリダイレクション 81 ページ。

IP フィルタリング設定

選択 IP フィルタリングを有効にします 上のフィルタリング IP をオンにします。この機能を有効にすると、IP フィルタリングルールのいずれかを満たす唯一のクライアントは、このゲートウェイを介して接続することが許可されています。

新しい IP フィルタルールを追加するには、次の操作を行います。

- 1 クリックに  ショーへ 次のダイアログ。



- 2 どちらか選択してください **単一の IP アドレス** 若しくは **複数の IP アドレス**。
 - IP アドレスの範囲を超える場合には二つの規則が競合し、システムは、最も制限のルールを優先します。単一の IP アドレスは、常に IP アドレスの範囲よりも優先されます。例外を作成するために、単一の IP アドレスを使用してください。
 - 彼らは同じ TCP コマンドポートを共有する場合、2つの IP アドレス範囲は重複することはできません。
- 3 選択 **インクルード 着信 TCP コマンドポート**。
 - デフォルトのポートを使用するか、別のものを指定することもできます。
 - システムは、使用する別の TCP コマンドポートの数に制限はありません。しかし、一般的に 2つの以上または 3つの異なるポート（通常の使用のための 1、メンテナンスのための 1、および緊急用 1）を使用しないことが推奨されます。
- 4 選択 **A サポートされている接続**。
 - デフォルトでは、**接続をサポート** で指定された接続を使用します **高度** タブには、ストリームを送信します。
 - **自動検出** ゲートウェイが送信されるストリーミングする方法を決定します。
 - **ユニキャスト UDP** ストリームは、ユニキャスト UDP を使用して送信されます。
 - **マルチキャストストリーム**は、マルチキャストで送信されます。ネットワークがマルチキャストをサポートしていない場合は、ストリームは受信されません。
オプション場合、この設定は効果がありません **ビデオリダイレクションを有効にします** で選択されていません **高度** タブ。見る [ビデオリダイレクション 81 ページ](#)
- 5 新しいルールを追加するには、[OK]をクリックします。

フェデレーションサーバー

前書き

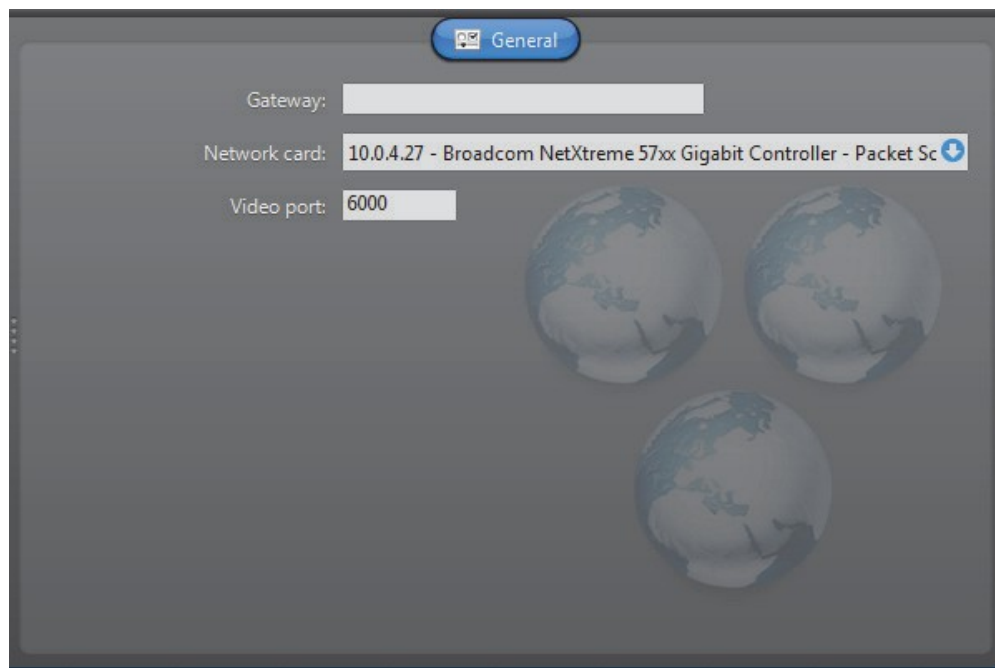


フェデレーションサーバーはの中核に存在するサービスです。Omnicast 連盟™、複数の独立したの Omnicast システムと一緒に接合して形成する仮想システム。これは、ローカルシステム上のユーザが他のリモートの Omnicast システムに属するエンティティにアクセスすることができます。フェデレーションサーバーによって公開されたリモートエンティティは、連合のエンティティと呼ばれています。

コンフィギュレーション

一般的な 設定

選択 フェデレーションサーバー リソースツリーからローカルマシン上のフェデレーションサーバーの構成を示しています。さらに重要なパラメータは、設定ツールで設定する必要があります。見る [フェデレーションサーバー](#) ページ 316 に。



設定可能なパラメータは以下のとおりです。

パラメーター	説明
ゲートウェイ	の名前 インクルード ゲートウェイ フェデレーションサーバーは、ディレクトリに接続するために使用しなければならないということ。ゲートウェイとフェデレーションサーバーが同じマシンにインストールされている場合は、このフィールドを空白のままにします。
ネットワーク カード	連合のカメラからのライブ映像のマルチキャスト伝送に使用するネットワークインタフェース。あなたの PC が複数装備されている場合に使用するネットワークカードを指定する必要があります。

ビデオポート 連合のカメラに使用するビデオ接続用のフェデレーション
サーバーが使用するポート番号を開始します。

アーカイバ

前書き



Archiver は責任サービスです **自動検出** としてビデオのステータスポーリング **ユニット**。ユニットとのすべての通信は、このサービスを介して確立されています。

ユニットと特定の通信パラメータは、アーカイバの拡張として定義されます。各アーカイバ拡張は、アーカイバを制御するように意図されているユニットのグループを記述する。そのため、あなたがする必要があります

アーカイバの設定を完了するためにあなたが持っているユニットの種類に基づいて適切なアーカイバ拡張を作成します。見る [アーカイバ拡張機能 97 ページ](#)。

アーカイブの負荷を共有するために、同じシステム上で必要な数だけアーカイバーが存在する場合があります。ご使用のシステムに持ってアーカイバの最大数は、あなたの Omnicast ライセンスのアーカイバオプションの数によって決定されます。見る [ディレクトリオプション 47 ページ](#)。

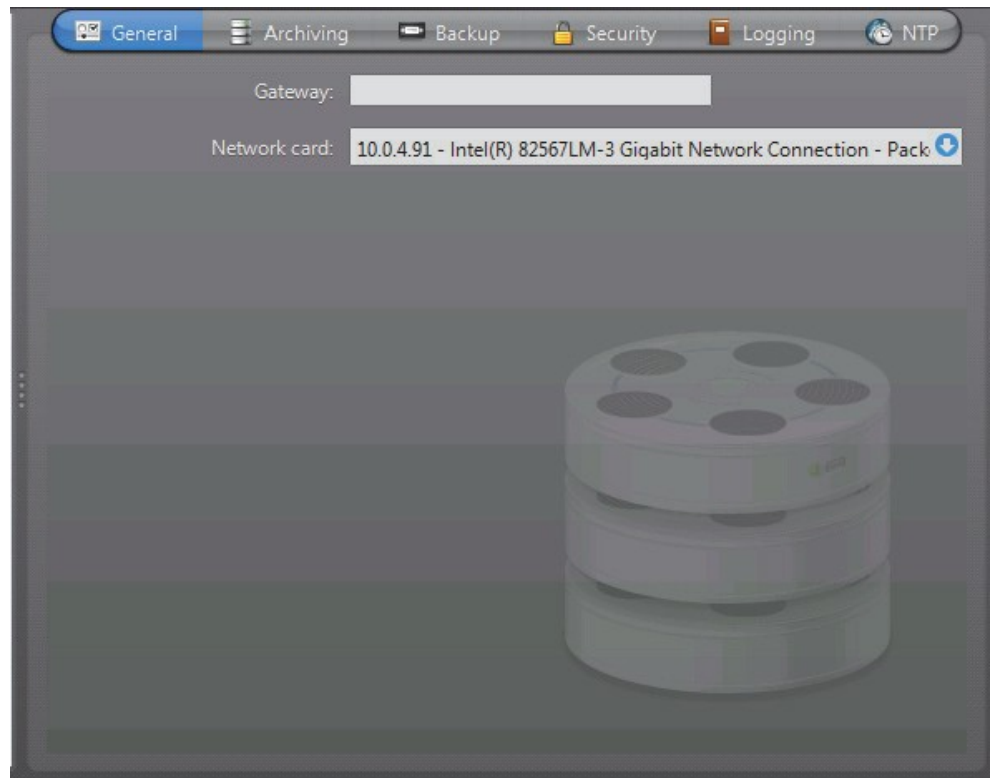
アーカイバのローカル設定は、次のタブにあります。

アイ	タブ	説明
	一般的な	一般設定（ゲートウェイ、ネットワークカード）。
	アーカイブ	アーカイブ設定（データベース、ストレージディスク、
	バックアッ	バックアップ設定（バックアップフォルダ、テープグルー
	セキュリティ	セキュリティ設定（ビデオ透かし）。
	ロギング	ログの設定（フォルダ、クリーンアップ、など）。
	NTP	NTP の設定（NTP サーバとの時刻同期）。

このサーバーアプリケーションのマシンに依存しないパラメータは、設定ツールで構成されています。見る [アーカイバ 204 ページ](#)。

一般的な

説明 ザ・一般的な タブが使用されています 設定するには ゲートウェイ Archiver はに接続する必要がありますし、ネットワークカードにつかいます。



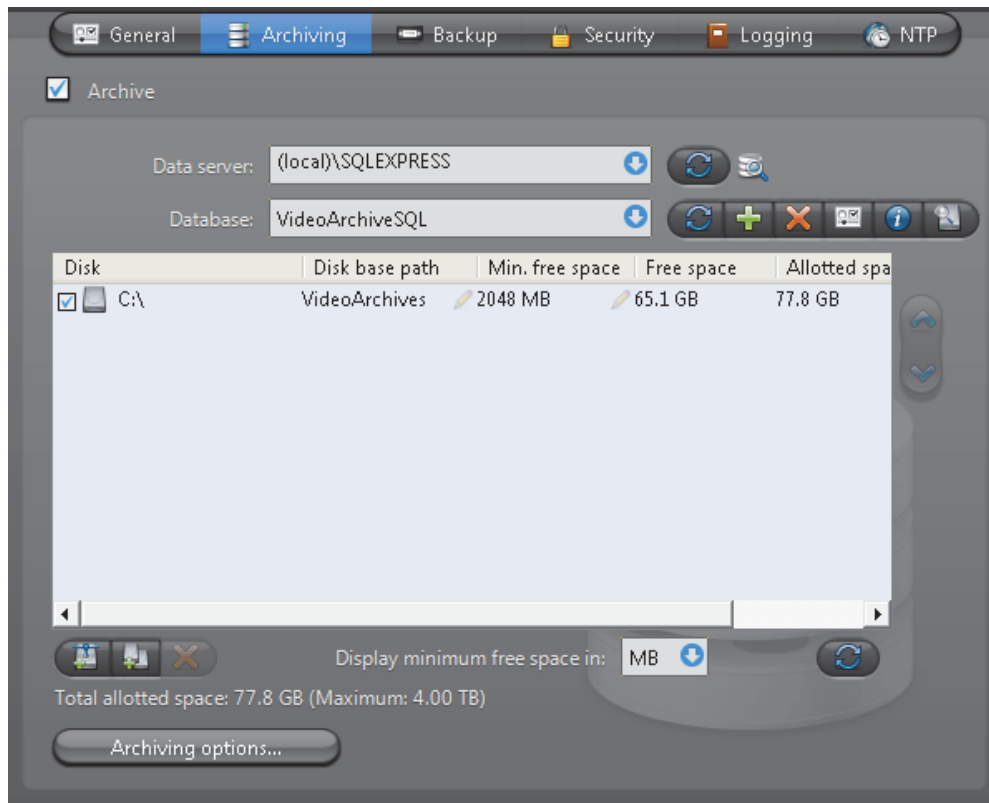
ゲートウェイとアーカイバが同じマシンにインストールされている場合は、ゲートウェイを残します
フィールドは空白。

あなただけ お使いの PC が複数装備されている場合は、ネットワークカードを指定する必要があります。

アーカイブ

説明

アーカイブ]タブには、アーカイブのカタログが格納されているデータベース、およびビデオファイルが格納されているディスクストレージを設定するために使用されます。



アーカイブ オプション 選択 **アーカイブ** このアーカイバのアーカイブを有効にします。あなたがビデオアーカイブを保存するために、このアーカイバを使用する予定がない場合でも、このオプションは常に有効にする必要があります。

アーカイブオプションは、次のような、アーカイバはビデオ関連のデータを保存できるようにするために有効にする必要があります **ブックマーク** そして **メタデータオーバーレイ**。あなたはこれだけアーカイバでライブ映像を表示したい場合は、このオプションを無効にするだろう唯一の理由です。


もし、あなたが **ビデオアーカイブ**を保存するために、このアーカイバを使用したくない、とのソフトウェアライセンスを使用します **アーカイブ** オプションに設定 **ユニットの場合のみ**。見る **アーカイバのオプション** 50 ページ。

アーカイブ データベース あなたがアーカイブを有効にするときは、アーカイブデータベースを定義する必要があります。







パラメーター

説明 (1/2)

データ サーバ



使用したいデータ・サーバを指定します。すでにデータ・サーバが別のマシンにインストールされている場合を除き、データ・サーバは、典型的には、「(ローカルにインストールされています (ローカル) \の Omnicast)」。クリック  お使いの LAN で利用可能なデータ・サーバのリストを

更新します。










パラメーター	説明 (2/2)
データベース	<p>選択 使用したいデータベースインスタンス。データ・サーバは、多くのデータベースインスタンスを管理することができます。インストール時に既存のデータ・サーバを選択しない限り、データベースインスタンス名は VideoArchiveSQL でなければなりません。</p> <p>コマンドボタンは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">  - 選択したデータ・サーバで使用可能なデータベース・インスタンスのリストを更新します。  - いずれかの既存のデータベース・インスタンスを上書きするか、新しいものを作成します。既存のデータ・サーバを使用することを選択した場合は、新しいデータベースインスタンスを作成する必要がありません。  - データサーバから選択されたデータベース・インスタンスを削除します。警告：すべての過去の構成が失われます。  - このデータベースのプロパティを表示します。  - データベース接続をテストします。見る データベース診断 57 ページ。  - 孤立ファイルを検索します。見る 孤立ファイルを探します 44 ページ。


注意 リモート・データベース・サーバを使用していて、システム上に複数のアーカイバがある場合は、指定されたデータベースは、各アーカイバ上で一意であることを確認してください。


アーカイブストレージ構成

アーカイブデータベースは、実際のアーカイブカタログを格納するために使用されている間 **ビデオファイル** あります ディスクに直接保存。あなたは、ローカルドライブを指定することができます  またはネットワークドライブ  あなたのビデオファイルを保存する場所として。

複数のディスクは同一のアーカイバに割り当てることができます。以下の例を参照してください。

Disk	Disk base path	Min. free space	Free space	Allotted space	Total size
<input checked="" type="checkbox"/>  C:\	VideoArchives	 30 GB	 2.20 GB	44.4 GB	74.4 GB
<input checked="" type="checkbox"/>  D:\	VideoArchives	 30 GB	 30.8 GB	81.7 GB	111 GB
<input checked="" type="checkbox"/>  \\Euclid\Public\	VideoArchives	 10 GB	 35.9 GB	11.4 GB	12.4 GB

Display minimum free space in: 


インストール時に、アーカイブストレージに割り当てられたデフォルトのディスクは "C : \VideoArchives"。あなたは追加のネットワークの場所をクリックすると、アーカイバに複数のネットワークの場所を追加することができます  ボタン。あなたはアーカイブストレージ用に指定した各ディスクについて、あなたはそのディスクベースパスとその分を指定する必要があります。フリースペース。

最小 フリースペース に ディスク

ディスクスペース アーカイブストレージのために事前に割り当てられていないのではなく、アーカイバは、ディスク上に残っている必要があります。最小空き容量によって制限されて与えられる最大に選択したディスクのアップに利用可能なスペースを使用することを許可されています。あなたは分を表示することもできます。MB、GB または TB の空き領域。値の整数部のみが表示されることに留意されたいです。したがって、5120 メガバイト 5 GB 以上 0 TB として表示されます。


警告 アーカイバ用に確保してディスク容量を使い切ってから、他のアプリケーションを防ぐためには何もありません。責任は、これは、管理者の世話に任せられないことを確認します。

フリースペースは、ディスク上に残っている実際の空き容量を示しています。割り当てられたスペースは、ディスクのマイナス分の総容量です。フリースペース。選択したディスクは Omnicast の使用に特化されていない場合は、アーカイブのために実際に使用可能なスペースが割り当てられたスペース未満であってもよいです。合計サイズは、ディスクの総容量を示します。

ディスクは、彼らがリストに表示されるために、アーカイバによって使用されています。使用  そして、ボタンは、リストで選択したディスクの順序を変更します。

ディスク グループ


アーカイバの主なボトルネックは、ディスクのスループットです。




Omnicast は、アーカイバは、複数のディスクに同時に書き込みできるようにすることで、この問題を軽減する方法があります。この最適化は、ディスク・グループを定義することによって達成されます .


各ディスクグループは、別のディスク・コントローラに対応しなければなりません。慎重にいくつかのディスクグループ上のビデオアーカイブを分割することによって、管理者が効率的にディスクアクセスの面で最大のスループットを達成することができます。ビデオアーカイブが使用可能なディスク・グループ間で分散されるべき方法は、設定ツールで定義されています。見る [アーカイブ 205 ページ](#)。


次の例では、という名前の 2 つのディスクグループ デフォルトのディスクグループ
そして オルタネートグループ
あります 使用されています。

Disk	Disk base path	Min. free space	Free space	Allotted space	Total size
<input checked="" type="checkbox"/> Default Disk Group					
<input checked="" type="checkbox"/> C:\	VideoArchives	30 GB	2.82 GB	444 GB	744 GB
<input checked="" type="checkbox"/> \\Euclid\Public\	VideoArchives	2 GB	35.6 GB	122 GB	124 GB
<input checked="" type="checkbox"/> Alternate Group					
<input checked="" type="checkbox"/> D:\	VideoArchives	30 GB	31.0 GB	81.7 GB	111 GB

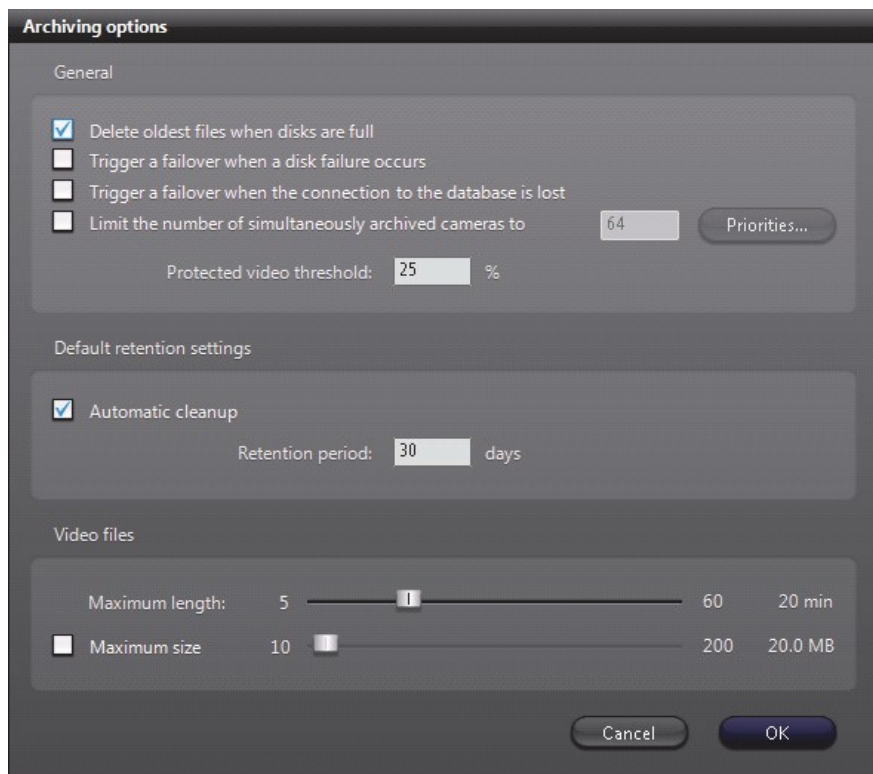
Display minimum free space in: GB 

アーカイバがインストールされている場合は、唯一のデフォルトのディスクグループが定義されています。ディスクグループが定義された複数のグループがある場合にのみ、リストに示されています。あなたは追加のディスク・グループをクリックすることで、より多くのディスク・グループを追加することができます  ボタン。次に使用  そして  別のグループから選択されたディスクを移動するためのボタン。

クリックしてください  ボタンは、選択したディスクまたはディスクグループを削除します。

クリック the  button 各ディスク上の残りの空き領域を更新します。

追加アーカイブオプション アーカイブオプション]ボタンをクリックすると、追加のアーカイブオプションを設定できます以下のダイアログが表示されます。



パラメータは、三つのグループに分けられます：

- 一般的なアーカイブオプション
- デフォルトの保存設定
- 動画ファイルのオプション

一般的なアーカイブオプション

DELETE OLDEST FILES **いつ DISKS FULL** - あなたはアーカイブストレージ（デフォルトモード）をリサイクルする場合は、このオプションを選択、つまり、最も古いファイルがすべてのディスクが一杯になったときに新しいファイルのためのスペースを作るために削除されます。

注意 複数のディスク・グループが使用される場合、各ディスクグループは、単一の記憶装置として考えられています。そのグループ内のすべてのディスクがいっぱいになると、ディスク・グループがいっぱいであると見なされます。

アーカイブ領域を管理する別の方法は、各ビデオエンコーダのための個々のアーカイブの保存期間を設定することです（参照 [保存期間 206](#) ページ）。この方法では、時間の長い期間のためのより多くの重要なデータを保持し、最初の重要度の低い映像を削除することができます。

Tリガーディスク障害が発生した FAILOVER - 指定したアーカイブのためのディスク・グループ内のすべてのディスクが破損し、完全な、または利用できない場合は、アーカイブのフェイルオーバーを有効にする場合は、このオプションを選択します。アーカイブのフェイルオーバーの詳細については、[アーカイブの可用性 17](#) ページ。

Tリガーデータベースへの接続が失われ FAILOVER - あなたの場合は、このオプションを選択

アーカイブデータベースへの接続が失われたときにアーカイブフェイルオーバーを有効にしたいです。アーカイブのフェイルオーバーの詳細については、[アーカイブの可用性 17](#) ページ。

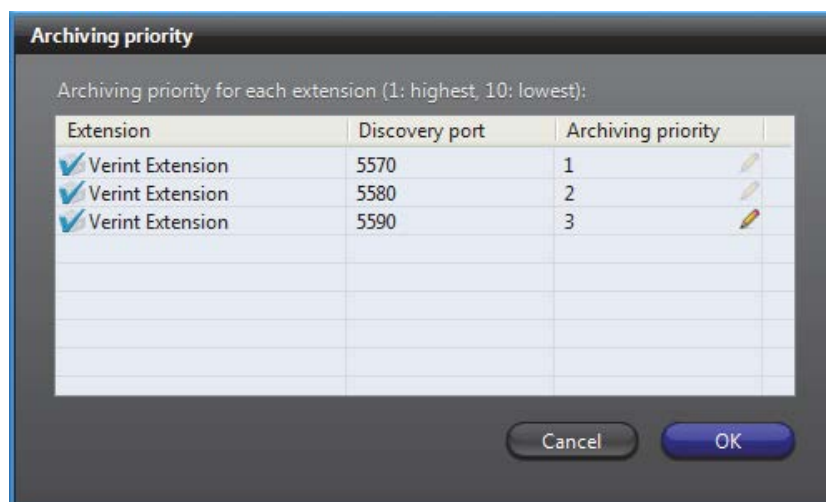
同時に ARCHIVED カメラの数を制限します - このオプションでは、アーカイバは、フェイルオーバー・プールの一部である場合にのみ有効です。アーカイバを同時に管理できるカメラの台数に制限を設定すると、フェイルオーバー中に処理できるものよりも重い負荷によって押しつぶされてから、ホストサーバーを防ぐのに役立ちます。(注: カメラは、それが現在、一つ以上のアーカイブスケジュールで覆われているときにアーカイブされると言われています。)

ザ・この作品を作るための方法は、それぞれにアーカイブ優先順位を割り当てることです **アーカイバ 拡張** アーカイバで扱います。同じアーカイバの拡張子の下でカバーされるすべてのエンコーダは、同じアーカイブの優先順位を共有しています。

アーカイブされたエンコーダの数が設定された制限に達すると要求するエンコーダは、現在アーカイブされているものよりも高いアーカイブ優先順位を持っていない限り、Archiver はすべての新しいアーカイブ要求を拒否します。それが事実である場合、前回最低のアーカイブ優先順位のエンコーダは、アーカイブリストに追加するには、新しいものの賛成でオフバンプされます。

慎重に設定することにより アーカイブの優先順位は、管理者は、システム内の重要なカメラのアーカイブがアーカイバが失敗したにかかわらず、フェイルオーバーによって危険にさらされないようにすることができます。

アーカイバ拡張のアーカイブ優先順位を設定するには、優先順位のボタンをクリックします。次に表示されるダイアログで変更を行います。



このオプションは、アーカイブに影響を与え、ビデオユニットのライブ映像の閲覧や、コマンドや制御には影響しません。

保護されたビデオの THRESHOLD - これは、ディスク上で占有できるビデオファイルを保護されたスペースの量を制限し、安全しきい値です。あなたが設定割合は、ディスクに記録された動画の合計サイズを持つことができる保護されたビデオの割合です。保護されたビデオファイルは、通常のアーカイブのクリーンアップ手順によって削除されませんファイルです。このしきい値を超えた場合、アーカイバは限り条件が真であるが、そのように構成されているところはどこでもビデオ保護を適用していきますように一回 15 分ごとにイベントを超えた保護されたビデオのしきい値を生成します。

デフォルトの保存 設定

カメラ固有の保持設定はデフォルトの設定を上書きしている入力されない限り、デフォルトの保存設定は、アーカイバによって制御されるすべてのカメラに使用されます。見る **アーカイブ 205** ページ。

自動クリーンアップ - このオプションを選択すると、アーカイバは、自動的に指定した保存期間後に録画されたビデオを削除します。オフにした場合アーカイバが古いものから開始し、ディスクの空き容量が不足したとき、ビデオアーカイブは削除されます。

保存期間 - 保持期間は、自動クリーンアップが有効になっている場合、映像アーカイブはカメラごとにオンラインを維持しなければならない時間を指定します。

動画ファイル オプション ビデオファイルは圧縮された映像を保存するために使用されるファイルです。彼らは、「拡張機能を使用します.G64」。

あなたは、ビデオファイルのサイズを制御するための2つの方法があります：

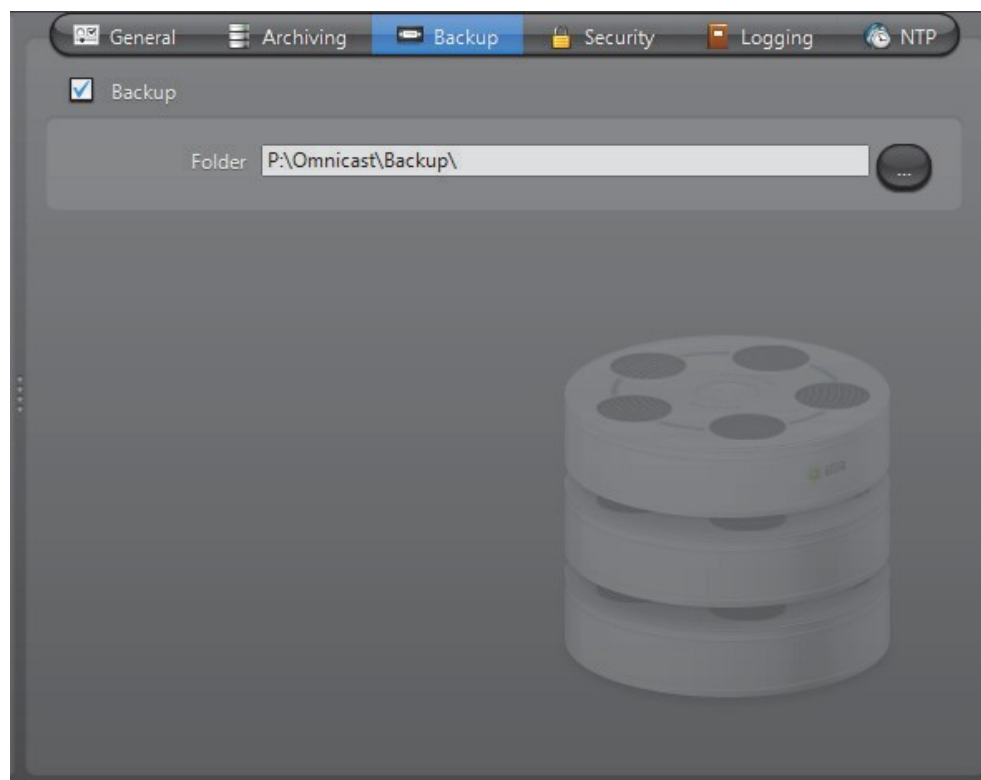
最大の長さ - ビデオファイルの最大長を設定します。長さは、第1のビデオフレームおよびファイルに格納された最後のビデオフレームの間の期間です。

最大サイズ - ビデオファイルのサイズに制限を設定するには、このオプションを選択します。

バックアップ

説明

バックアップ機能をオンにすることができ、オフ、およびバックアップのための物理的なデバイスがどこに設定されているところ[バックアップ]タブです。



バックアップオプション

選択 **バックアップ** このアーカイバのバックアップ機能を有効にします。

この機能をオンにする前に、お使いのソフトウェアライセンスを使用すると、バックアップしたファイルを復元することができますことを確認してください。この機

能は、あなたのシステム上で持つことが許可されているアーカイバの復元の数によって制御されます。見る [ディレクトリオプション 47](#) ページ。

あなたは、バックアップのために、以下のパラメータを設定する必要があります。

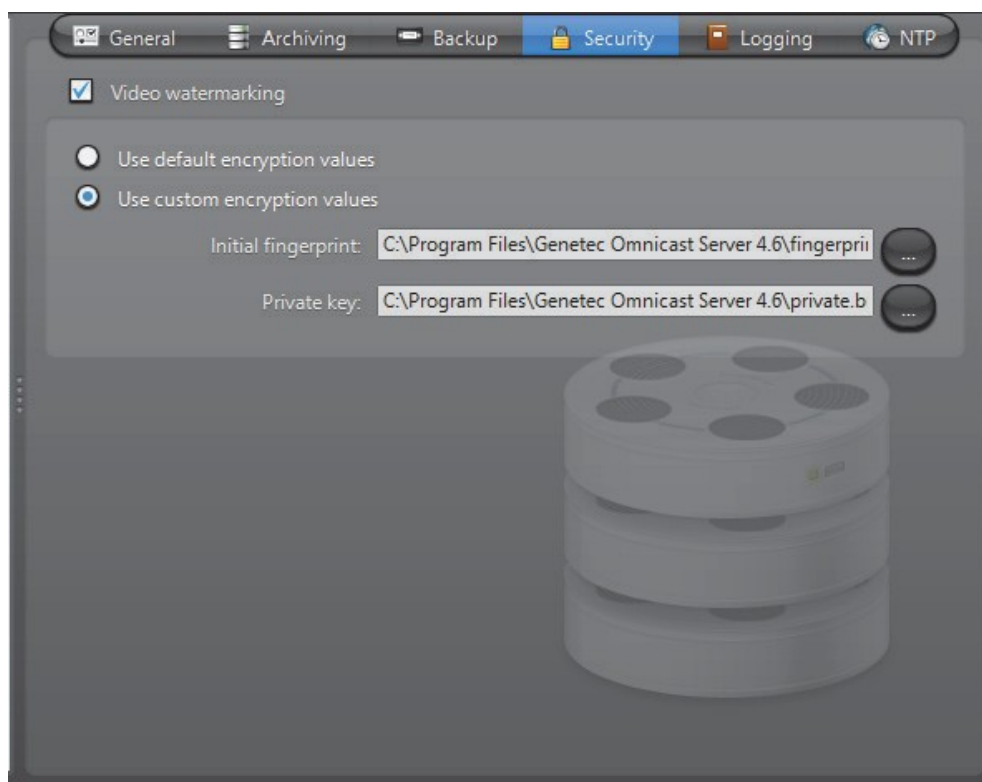
パラメーター	説明
フォルダ アップセット	バックアップセットが作成されますフォルダ。見るバックアップ 235 ページ。

追加オプション、バックアップの頻度や時間など、設定ツールで設定する必要があります。見るバックアップ213 ページ。

セキュリティ

説明

[セキュリティ]タブでは、ビデオアーカイブの改ざんを防止するために、すなわち、アーカイバの周りにセキュリティを強化することができます。



動画電子透かし

選択 **動画電子透かし** この機能をオンにします。ビデオ透かしは、デジタル署名は、その信憑性を保証するために、記録された各ビデオフレームに追加されるプロセスです。誰が後で（フレームを削除、変更、追加）ビデオに変更を加えるしようとする、署名は、もはやビデオが改ざんされていることを示し、したがって、一致しくなくなります。

透かしの信憑性はアーカイブ Player で確認することができます。Omnicast アーカイブプレーヤーユーザーガイド - 「信憑性を検証するビデオファイル」を参照してください。

この機能をオンにすると、管理者は2つのオプションがあります。

- **デフォルトの暗号化値を使用します** - システムで提供されるデフォルトの暗号値を使用します。
- **カスタムの暗号化値を使用します** - デフォルトの代わりにカスタム暗号化キーを使用してください。

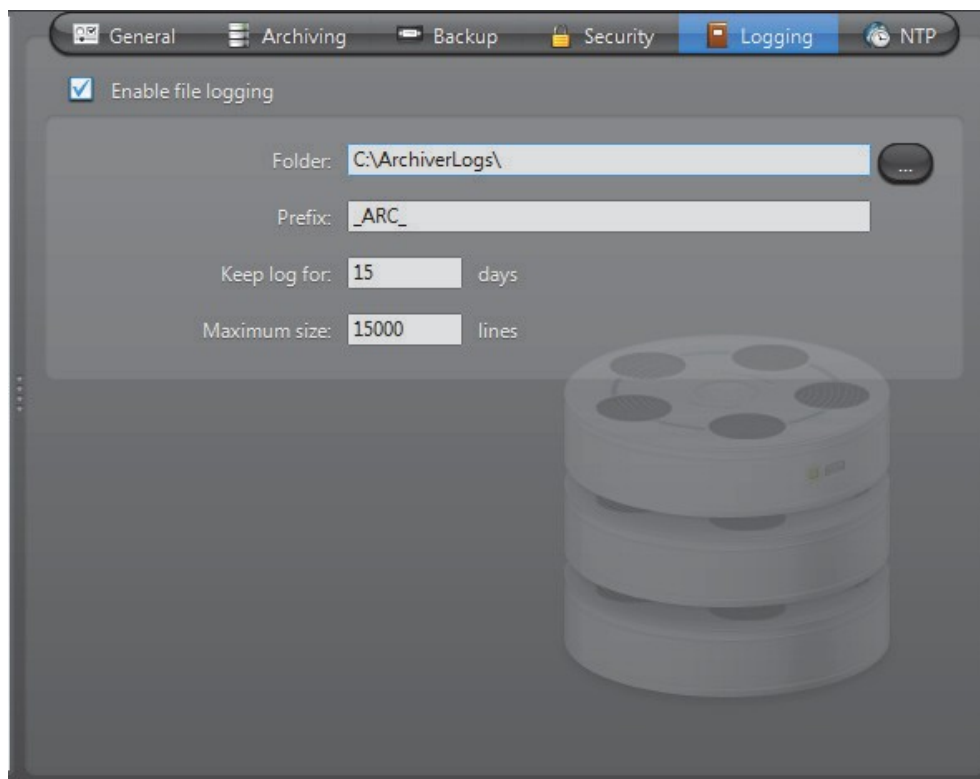
カスタム暗号値を適用するには、次の操作を行います。

- 1 名前のプログラムを実行します。 **EncryptionKeyGenerator.exe**
 - それは **Omnicast** のサーバーがインストールされているフォルダに含まれています。
一般的に 「C:\プログラムファイル\ゼネテックの Omnicast サーバーの xy\」
 - このプログラムは「という名前の2つの1キロバイトのファイルが生成されます。 **fingerprint.bin**「そして、「**private.bin**」。
最初のファイルは暗号化に使用されるランダム 20 バイト初期の指紋が含まれています。2番目のファイルが **RSA 248** ビットの暗号化キーが含まれています。これらの2つのファイルは、プログラムが実行されるたびに異なるものになります。
- 2 安全な場所にこれらの2つのファイルを移動します。
- 3 から **セキュリティ** タブを選択 **カスタム暗号化値を使用**。
- 4 特定します 「へのパス **fingerprint.bin**」中 **初期の指紋**。
- 5 特定します 「へのパス **private.bin**」中 **プライベートキー**。
- 6 クリック **適用** します。
アーカイバが再起動します。透かしは、後続のすべてのビデオ録画に適用されません。

ロギング

説明

[ログ]タブは、アーカイバのイベントログを設定するために使用されます。この機能は、ディスク上のアーカイバによって制御アーカイバまたは任意のエンティティ（ユニット、カメラなど）に起因するすべてのイベントを記録します。いくつかのアーカイブ関連のイベントも設定ツールから見る可以看到ることに注意してください。見る [イベント検索 219](#) ページ。



選択 **ファイルのログを有効** 上のログ機能をオンにします。ログファイルが含まれています<タブ>
彼らは簡単にメモ帳や Excel で表示できるように値を分離しました。

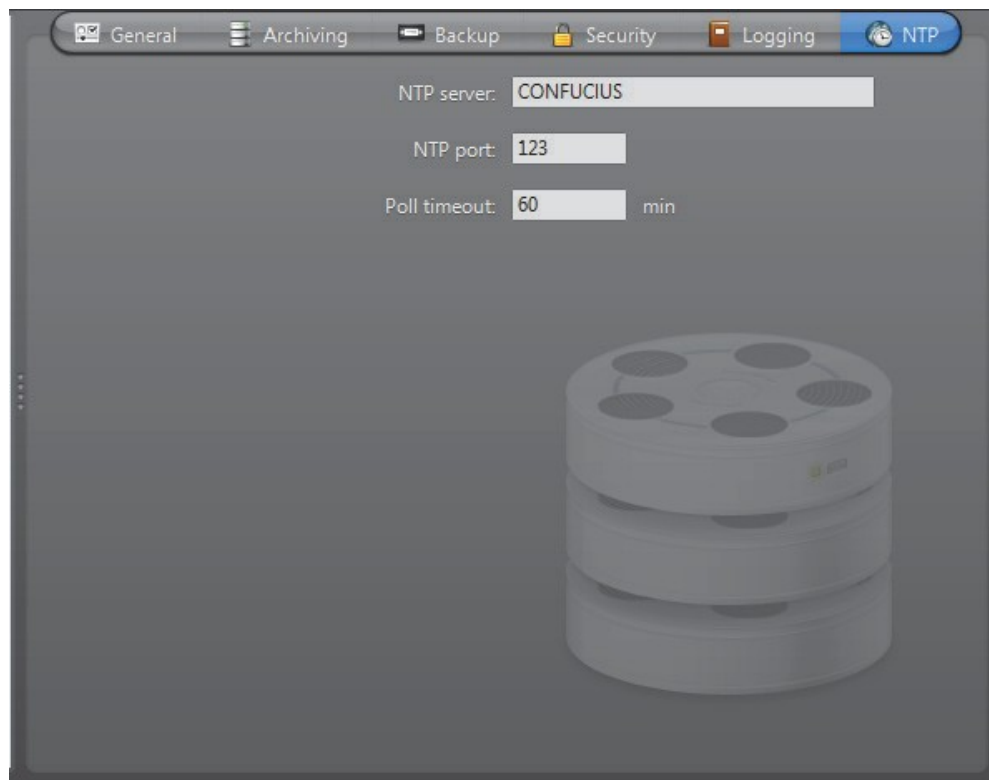
パラメーター	説明
フォルダ	ログファイルの場所。
ログ 接頭 辞	ログ・ファイル名に使用するプレフィックス。ファイル名は、3桁のシーケンス番号に続く日付（YYYY-MM-DD）、続いて接頭辞、からなります。 例： "_ARC_2007-09-13_000.log"。 日ログファイルの数は、オンラインで保たれるべきです。
最大サイズ	各ログファイルに含めることができる行の最大数。指定された最大値に達すると、アーカイバは、新しいファイルを開きます。

のログを保管してください

NTP

説明

NTP と NTP サーバをサポートユニット間の時間を同期する NTP（ネットワークタイムプロトコル）タブを使用します。



パラメーター	説明
NTP サーバ	NTP サーバ名を指定します。
NTP ポート	NTP サーバーのポート番号を指定します。
投票 タイムアウト	あなたは彼らが適切 NTP サーバと同期していることを確認するためにチェックするユニットの時間を希望する頻度を分単位で指定します。60 分が入力された場合、時間は 60 分ごとに確認されます。

アーカイバ拡張機能

定義



アーカイバの拡張 追加されています **アーカイバ** 特定のグループの制御に関する設定 **ユニット**。これらの設定は、自動検出、アーカイバと単位、アーカイブ優先順位、およびセキュリティとの間の通信などの分野をカバーします。Archiver は複数の拡張子を持つことができます。

オートマチック 発見

自動検出は、ネットワーク上のユニットは自動的にアーカイバによって発見されるプロセスです。これは、特定の上に発見要求をブロードキャストすることにより行われます **検出ポート**。そして自身の接続情報が含まれているパッケージに対応するために、そのポートでリスンするように構成されているすべてのユニットを待っています。Omnicast は、このように通信可能に、ユニットへの接続を設定するためにこの情報を使用します。いないすべてのユニットは、この機能をサポートしています。

作成 アーカイバ 拡張

新しいアーカイバの拡張機能を作成するには、次の手順を実行します。


注意 ほとんどでユニットを追加するときのケースは、拡張子が自動的に作成することができます。詳細については、[手動ユニットを追加](#) ページ 405 に。

1 あなたが作成したい拡張子タイプのライセンスを持っていることを確認してください。見る

[アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

- 1** リソースツリーでアーカイバを右クリックし、[作成]を選択し、延長のタイプ。
- 2** 次のメッセージが表示されます。

君はシステムが新しいコンフィギュレーションを使用する前に、Archiver サービスを再起動する必要があります。あなたは今、サービスを再起動しますか？

- 3** デフォルトの設定を保持したい場合は、[はい]をクリックします。Archiver はすぐに再起動します。
- 4** [いいえ]をクリックして、新しい設定を入力するために、その後の手順に従ってください。選択したタイプの新しい拡張機能は、アーカイバの下に表示されます  リソースツリーインテ
- 5** リソースツリーから新しく作成された拡張子（常に最後の 1）を選択し、それに応じて設定を変更します。
見る [拡張タイプ](#) 98 ページ。
- 6** [操作]メニューまたはウォッチドッグからのスタートコマンドを使用して Archiver サービスを再起動します。
見る [ウォッチドッグトレイ](#) ページ 504 に。

拡張 タイプ

以下は、サポートされているすべての拡張タイプのリストです。サポートされていないビデオユニットの場合自動検出、何があるのか、それらの拡張の唯一のインスタンスが、指定されたアーカイバのために定義されなくてもよいです 検出ポート別の拡張子を区別します。

- ACTI 拡張 - 複数のインスタンスを許可
- Arecont 拡張 - シングルインスタンスのみ
- AutoVu 拡張 - シングルインスタンスのみ
- AXIS 拡張 - シングルインスタンスのみ
- ボッシュ拡張 - 複数のインスタンスを許可
- 一般的な拡張 - シングルインスタンスのみ
- ジェネリックプラス拡張 - シングルインスタンスのみ
- ゼネテック拡張 - シングルインスタンスのみ
- Interlogix CamPlus IP 拡張 - 複数のインスタンスを許可
- Interlogix CamPlus 2 IP 拡張 - シングルインスタンスのみ
- Interlogix メガピクセル拡張 - シングルインスタンスのみ
- Interlogix MPEG-4 エクステンション - 複数のインスタンスを許可
- Interlogix ウェーブレット/JPEG 2000 拡張 - シングルインスタンスのみ
- IQinVision 拡張 - シングルインスタンスのみ
- Siquira 拡張 - シングルインスタンスのみ
- パナソニック拡張 - シングルインスタンスのみ
- Pelco の拡張 - シングルインスタンスのみ
- ソニー拡張 - シングルインスタンスのみ
- Verint 社延長 - 複数のインスタンスを許可
- VIVOTEK 拡張 - シングルインスタンスのみ

アーカイバ必見によって自動的に発見することができないユニットは、システムに手動で追加します。ユニット - 設定ツールを参照してください - [動画ユニットを追加](#) ページ 405 に。

ACTI 拡張

定義

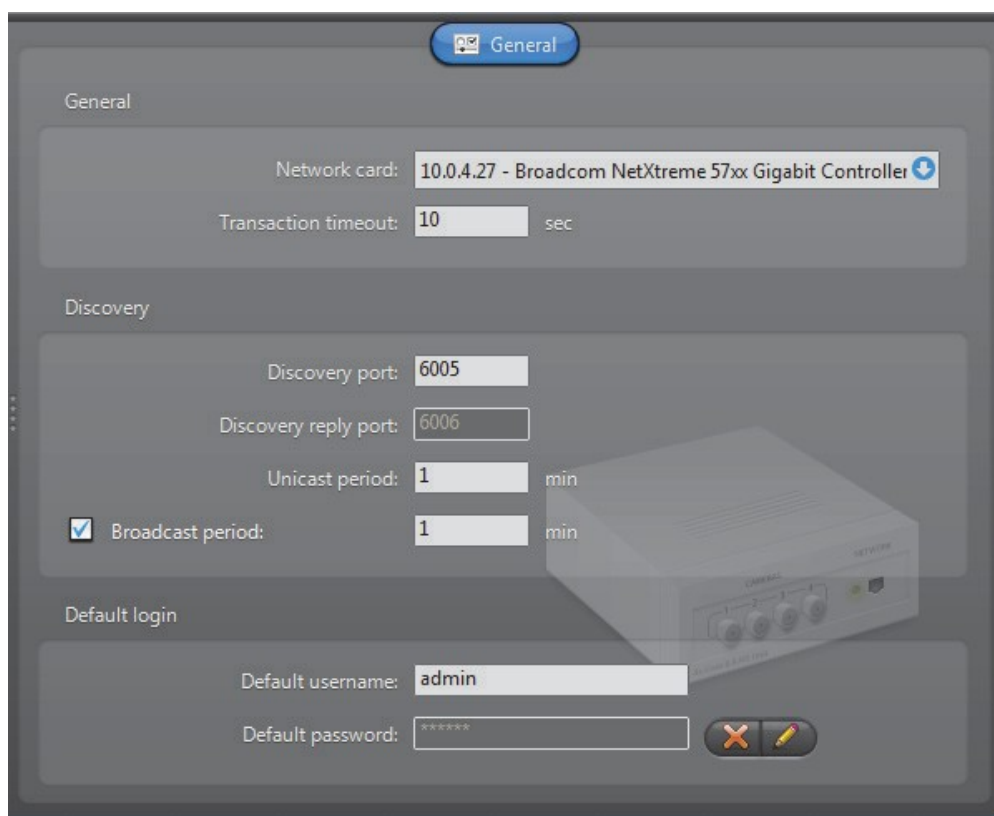
ACTI 拡張子はアーカイバによって制御 ACTI ビデオサーバの一般的な設定を構成するために使用されています。

ACTI 拡張を定義するには、お使いのアーカイバライセンスオプションをサポートしている必要があります **ACTI MPEG-4 カメラ**。見る [アーカイバのオプション 50](#) ページ。

注意 ACTI ユニットを選択し、汎用拡張を介して制御されています。見る [一般的な拡張 サポート ACTI 単位](#)については **108** ページ、および使用する正しい拡張子に、Omnicast のリリースノートを参照してください。

一般的な 設定

すべて ACTI 拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター

説明 (1/2)

ネットワーク カード ACTI IP カメラとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

発見 ポート に対応 **検索サーバポート 1** ACTI ビデオサーバの設定インテ

ディスカバリー返信 ポート に対応 **検索サーバのポート 2** ACTI ビデオサーバの設定インテ

パラメーター	説明 (2/2)
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
放送 期間	拡張子がブロードキャストを使用して新しいユニットを発見しようとするとなる期間。あなたは、放送期間オプションをクリア <input checked="" type="checkbox"/> することでブロードキャスト検出を無効にすることができます。
デフォルト ログイン	すべての ACTI ユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。

Arecont 拡張

定義

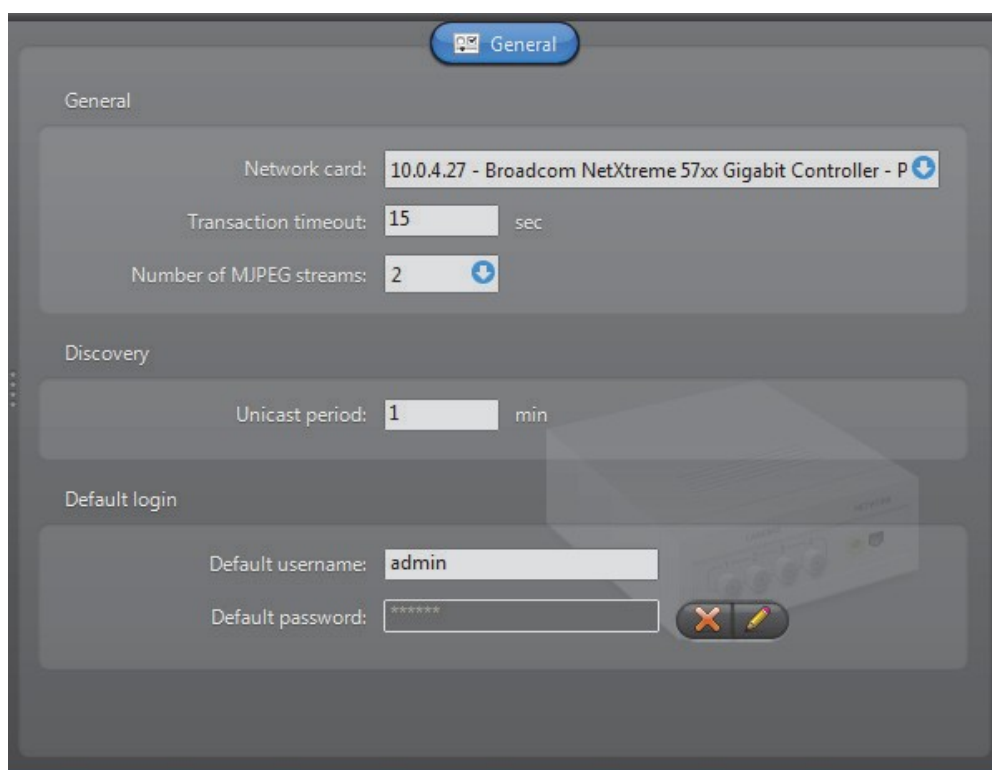
Arecont 拡張子はアーカイバによって制御 Arecont ユニットの一般のおよびセキュリティ設定を構成するために使用されます。Arecont ユニットのサポートしていません。自動検出。

Arecont 拡張を定義するには、お使いのアーカイバライセンスオプションをサポートしている必要があります Arecont MJPEG カメラ。見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

注意 Arecont ユニットの選択し、汎用拡張を介して制御されています。見る [一般的な拡張](#) サポート Arecont 単位については 108 ページ、および使用する正しい拡張子に、Omnicast のリリースノートを参照してください。

一般的な設定

すべての Arecont 拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター	説明 (1/2)
ネットワーク カード	Arecont ユニットとの通信に使用するネットワークカード。
トランザクションタイムアウト	ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。
MJPEG ストリームの数	各 Arecont 部が生成しなければならない MJPEG ストリーム (1~3) の数。
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。

パラメーター

説明 (2/2)

デフォルト ログインデフォルトのログインはオプションです。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください - [動画ユニットを追加](#) ページ 405 に。

AutoVu 拡張

定義

AutoVu 拡張子はアーカイバによって制御されるすべての AutoVu シャープユニットの一般的なセキュリティ設定を構成するために使用されます。

AutoVu シャープユニットは、必要に応じて、車両のナンバープレートを捕捉ホットリストに対してそれらを一致し、後のクエリのためのデータを格納するために AutoVu LPR プラグインでのみ使用されます。

この拡張、AutoVu シャープユニット、および AutoVu LPR プラグインの詳細については、AutoVu LPR プラグインのユーザーガイドを参照してください。

AXIS 拡張

定義

AXIS 拡張子はアーカイバによって制御軸の単位の一般のおよびセキュリティ設定を構成するために使用されます。AXIS ユニットのサポートしていません。自動検出。

AXIS 拡張を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、次のいずれかのオプションをサポートする必要があります。AXIS 264 カメラ、AXIS MPEG-4 カメラ/アナログモニタ 若しくは AXIS MJPEG カメラ/アナログモニタ。

以下に説明するように、単位である H.264、MPEG-4 の総当たり 6 つのストリームを超え推奨、および MJPEG ストリームされません。

注意 軸の単位を選択し、汎用拡張を介して制御されています。見る [一般的な拡張](#) サポート軸軸ユニットについては 108 ページ、および使用する正しい拡張子に、Omnicast のリリースノートを参照してください。

見る [アーカイバのオプション](#) ページの 50.一般設定

一般的な設定

すべての AXIS の拡張設定は、単一のタブにあります

The screenshot shows the configuration interface for an AXIS unit. It is divided into three sections: General, Discovery, and Default login. The General section includes a dropdown for Network card (set to 10.0.2.21 - Microsoft Virtual Machine Bus Network Adapter), a Transaction timeout field (set to 15 sec), and an RTSP port field (set to 554). The Discovery section includes a Unicast period field (set to 1 min) and a checked checkbox for Allow hostname address resolution. The Default login section includes fields for Default username and Default password, and an unchecked checkbox for Use HTTPS. A faint image of an AXIS camera is visible in the background.

パラメーター

説明 (1/2)

ネットワーク カード AXIS ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考え

られています。

パラメーター	説明 (2/2)
RTSP ポート	ポートは、RTSP (リアルタイムストリーミングプロトコル) を使用しました。あなたはファイアウォールで特定の問題がない限り、この値は変更しないでください。
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
ホスト名のアドレス解決を許可します	あなたはアーカイバは、ホスト名の代わりに IP アドレスを使用して新しいユニットを発見したい場合は、このオプションを選択します。
デフォルト ログイン	すべての AXIS ユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。 あなたのユニットのための HTTPS プロトコルを有効にするには、HTTPS を使用]オプションを選択します。

ボッシュ拡張

定義

ボッシュの拡張 ボッシュ単位の設定を構成するために使用されています。各ボッシュ拡張は、アーカイバが同じ共有ボッシュ単位のグループにアクセスすることを可能にします**検出ポート**。与えられた Archiver は、いくつかのボッシュ拡張を使用することができます。各ボッシュ拡張は、別の検出ポートを使用して設定する必要があります。

ボッシュの拡張を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、次の2つのオプションのいずれかをサポートする必要があります。

- ボッシュ MPEG-4 カメラ/アナログモニタ
- ボッシュ MPEG-2 カメラ/アナログモニタ

見る [アーカイバのオプション 50 ページ](#)。

一般的な設定

クリック **一般的な** タブは、ボッシュの拡張のための一般的な設定を確認するには：

The screenshot displays the configuration window for the Archiver software. It features two main tabs: 'General' and 'VRM'. The 'General' tab is selected and shows the following settings:

- Network card:** 10.0.4.91 - Intel(R) 82567LM-3 Gigabit Network Connector
- Transaction timeout:** 5 sec
- Command port:** 1756

The 'Discovery' tab is also visible and contains the following settings:

- Discovery port:** 1800
- Unicast period:** 1 min
- Multicast period:** 1 min (checked)
- Broadcast period:** 1 min (checked)
- IP:** 225 . 86 . 67 . 83

At the bottom, there is a 'Default login' section with a 'Default password' field and a small icon for password management.

パラメーター

説明 (1/2)

ネットワークカード ボッシュ・ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

コマンドポート アーカイバが使用するポートは、ボッシュ・ユニットにコマンドを送信します。このフィールドは変更できません。


ん。

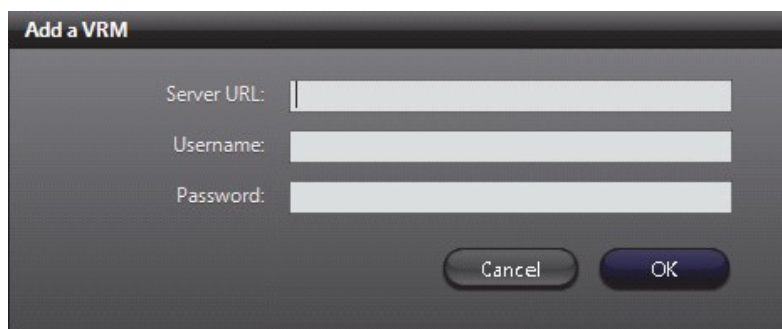
パラメーター	説明 (2/2)
発見 ポート	<p>自動検出ポート。同じボッシュの拡張を介して制御されなければならないすべてのユニットは、同じ検出ポートを使用して設定する必要があります。</p> <p>同じアーカイバに関連したボッシュの拡張子はすべて別の検出ポートを持っている必要があります。アーカイバは別のマシンにインストールされている別のアーカイバのスタンバイとして構成されている場合は、両者が全く同じように構成されたボッシュの延長（すなわち、同じ検出ポートと同じログインパスワード）を持っていることを確認してください。</p>
ユニキャスト 期間	<p>拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。</p>
マルチキャスト 期間	<p>拡張マルチキャストを使用して新しいユニットを発見しようとする期間。あなたはクリアすることにより、マルチキャスト検出を無効にします <input checked="" type="checkbox"/> マルチキャスト期間 オプション。</p> <p>次の IP アドレスがの Omnicast で使用される標準のマルチキャスト IP アドレスです。それはすでに何か他のものために使用されている場合にのみ、それを変更します。</p>
放送 期間	<p>拡張子がブロードキャストを使用して新しいユニットを発見しようとする期間。あなたは、放送期間オプションをクリア <input checked="" type="checkbox"/> することでブロードキャスト検出を無効にすることができます。</p>
デフォルトパスワード	<p>デフォルトのパスワードはのパスワードです サービス ユーザー。Archiver はと接続する必要があります サービス ユーザーでユニット構成を変更するため。ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加ページ 405 に。</p>

VRM 設定 また、あなたのボッシュ内線にボッシュビデオレコーディングマネージャー (VRM) を追加することができます。これは、あなたが照会およびボッシュ VRM によって管理されているボッシュのカメラからの映像を再生することができます。複数のボッシュの拡張子は同じ VRM を使用することができます。



ボッシュ VRM のビデオファイルをエクスポートした後、あなたはボッシュ透かし検証ツールで自分の透かしを検証することができます。ボッシュ VRM ビデオファイルやブックマークも保護され、保護されていないことができます。詳細については、の Omnicast アーカイブプレーヤーのユーザーガイドを参照してください。

ボッシュ内線にボッシュ VRM を追加するには：


- 1 ボッシュの延長では、VRM]タブをクリックします。
- 2 クリック インクルード  ボタン。 ザ・ 加えます VRM ダイアログボックスが表示されます。



- 3 サーバーの URL フィールドでは、VRM の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- 4 入力します **ユーザー名** そして **パスワード**、をクリックします [OK]。VRM は、リストに追加されます。

あなたがリストに複数の VRM を追加する場合は、移動を使い切  とダウンリストで  VRM を移動したりするためのボタンを下に移動することができます。デフォルトでは、の Omnicast は、クエリやアーカイブされたビデオのためのリストの最初の VRM を使用します。最初の VRM が利用できない場合、の Omnicast は、リスト内の次の VRM を使用します。

あなたは、アーカイバは、アーカイバのログにアクセスすることで、いつでも使用している VRM かを見ることができます。アーカイバのログの詳細については、[ロギング95](#) ページ。

リストから VRM を削除するには、それを選択し、 ボタンをクリックしてください。

一般的な拡張

定義

一般的な拡張子は JPEG、MJPEG、H.264 または MPEG-4 圧縮のいずれかをサポートする汎用的なエンコーダを設定するために使用されています。Omnicast のは、このような（これらに限定されない）AXIS、IQEye、OpenVideo、パナソニック、ソニー、東芝などのベンダーからの一般的なエンコーダの広い範囲をサポートしています。ジェネリックエンコーダの特定のブランドやモデルがサポートされていることを確認するには、ゼネテックのテクニカルサポートに連絡してください。

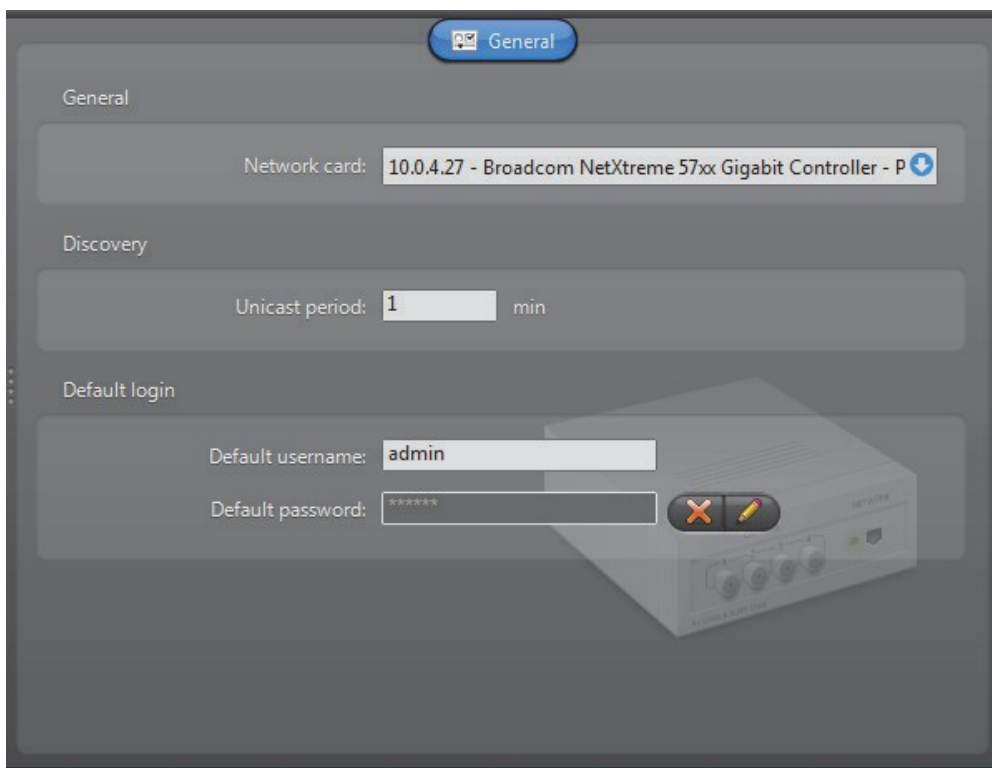
一般的な拡張を定義するには、次のいずれかのオプションをサポートしている必要がありますアーカイバライセンス：

- 一般的な H.264 カメラ
- 一般的な MPEG-4 カメラ
- ジェネリック MJPEG カメラ

見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

一般的な 設定

すべての一般的な拡張機能の設定は、単一のタブにあります



パラメーター

説明

ネットワーク カード ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

ユニキャスト 期間 拡張は、各ユニットがまだアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。

デフォルト ログイン 特定のユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください -

動画ユニットを追加 ページ 405 に。

ジェネリックプラス拡張

定義

ジェネリックプラスエクステンションは、H.264、MPEG-4、または MJPEG 圧縮のいずれかをサポートする汎用的なエンコーダを設定するために使用されています。ジェネリックプラスエクステンションは、ユニットを管理するためのドライバが必要です。ドライバが自動的にあなたの Omnicast ソフトウェアをインストールし、そしてあなたはジェネリックプラス拡張にユニットを追加するときに定義されています。複数のベンダーからのエンコーダは、JVC と Siquira として、サポートされています。エンコーダの特定のブランドやモデルがサポートされていることを確認するには、ゼネテックのテクニカルサポートに連絡してください。

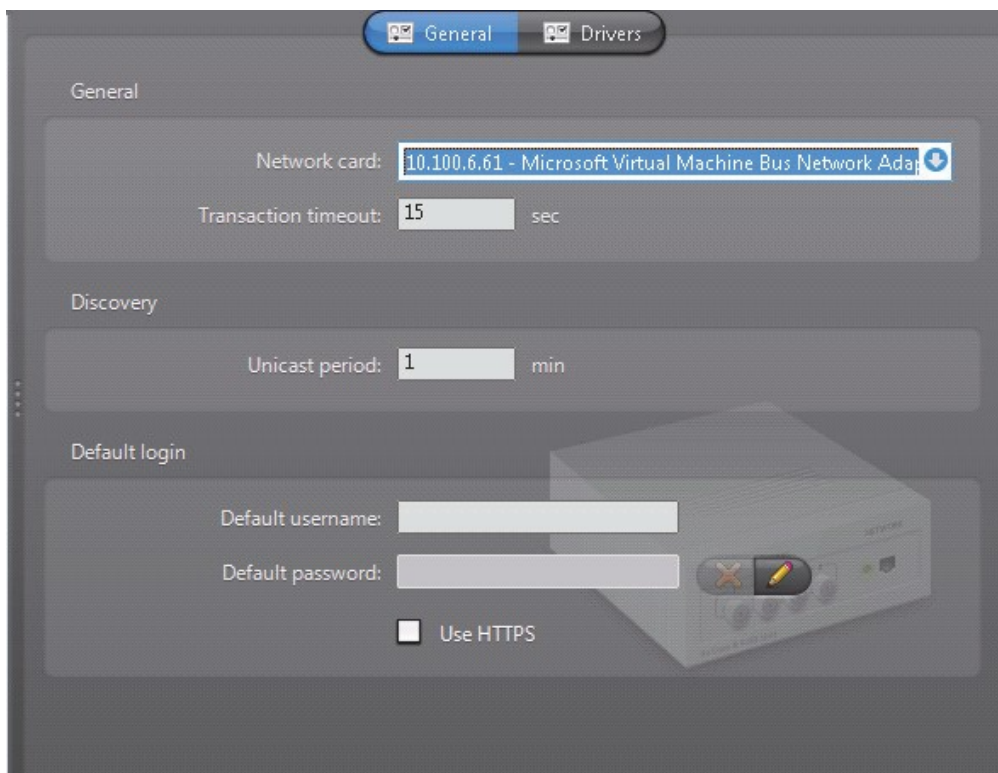
ジェネリックプラス拡張を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、次のいずれかのオプションをサポートする必要があります。

- ジェネリックプラス H.264 カメラ
- ジェネリックプラス MPEG-4 カメラ
- ジェネリックプラス MJPEG カメラ

見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

一般的な設定

ジェネリックプラス拡張設定は、[全般]タブページで確認されています。



パラメーター

説明 (1/2)

ネットワークカード ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

パラメーター	説明 (2/2)
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
デフォルト ログイン	特定のユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。 あなたのユニットのための HTTPS プロトコルを有効にするには、HTTPS を使用]オプションを選択します。

利用できます ドライバ ジェネリックプラス拡張で利用できるドライバーに関する情報は[ドライバ] タブに一覧表示されます。情報は、ユニットのドライバタイプ、ドライバのインストールに使ったの Omnicast ソフトウェアのバージョン、およびお使いのシステム上のドライバの場所を含んでいます。

ゼネテック拡張

定義

ゼネテック拡張はゼネテックプロトコルを使用してアーカイバによって制御ユニットのすべての一般的な設定を構成するために使用されます。ゼネテック拡張は MJPEG、H.264 または MPEG-4 圧縮のいずれかを支持するエンコーダをサポートします。ゼネテックプロトコルは、ビデオユニットに直接実装することができます。あるいは、ゼネテックプロトコルは外部の仲介装置によってビデオユニット自身のプロトコルに変換することができます。詳細については、ゼネテックのテクニカルサポートに連絡してください。

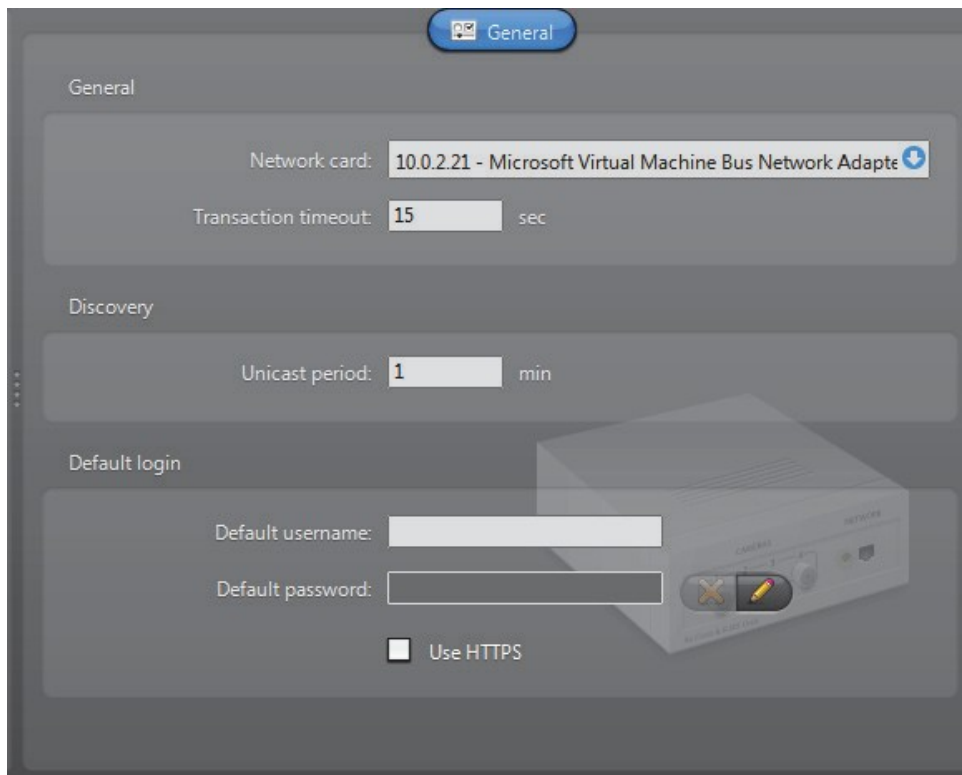
ゼネテック拡張を定義するには、次のいずれかのオプションをサポートしている必要がありますアーカイバライセンス：

- **ゼネテック H.264 カメラ**
- **ゼネテック MPEG-4 カメラ**
- **ゼネテック MJPEG カメラ**

見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

一般的な 設定

すべてのゼネテック拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター	説明
ネットワーク カード	ユニットとの通信に使用するネットワークカード。
トランザクションタイムアウト	ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
デフォルトログイン	特定のユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。 あなたのユニットのための HTTPS プロトコルを有効にするには、[HTTPS を使用] オプションを選択します。

Interlogix CamPlus IP 拡張

定義

Interlogix CamPlus IP 拡張子は Interlogix CamPlus IP カメラのほとんどの一般的な設定を構成するために使用されています。各 Interlogix 拡張子はアーカイバが同じことを共有 Interlogix Camplus IP カメラのグループにアクセスすることができます。検出ポート。与えられた Archiver は、いくつかの Interlogix CamPlus IP 拡張を使用することができます。各拡張は、別の検出ポートを使用して設定する必要があります。

Interlogix CamPlus IP 拡張を定義するには、お使いのアーカイバライセンスオプションをサポートしている必要があります。Interlogix CamPlus IP カメラ。見る [アーカイバのオプション 50 ページ](#)。

一般的な設定

すべての Interlogix CamPlus IP 内線の設定は、単一のタブにあります。

The screenshot shows a configuration window for Interlogix CamPlus IP. It is divided into three sections: General, Discovery, and Default login. In the General section, the Network card is set to '10.0.4.27 - Broadcom NetXtreme 57xx Gigabit Controller' and the Transaction timeout is 10 seconds. The Discovery section includes Discovery port (6005), Discovery reply port (6006), Unicast period (1 min), and Broadcast period (checked, 1 min). The Default login section shows the Default username as 'admin' and the Default password as '*****'. There is also a small image of a camera unit on the right side of the Discovery section.

パラメーター

説明 (1/2)

ネットワーク カード Interlogix CamPlus IP カメラとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

発見 ポート 対応 → 検索サーバポート 1 Interlogix CamPlus ビデオサーバの設定インチ

ディスカバリー返信 ポート 対応 → 検索サーバのポート 2 Interlogix CamPlus サーバの設定インチ

パラメーター	説明 (2/2)
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
放送 期間	拡張子がブロードキャストを使用して新しいユニットを発見しようとするとなる期間。あなたは、放送期間オプションをクリア <input checked="" type="checkbox"/> することでブロードキャスト検出を無効にすることができます。
デフォルト ログイン	すべての Interlogix CamPlus IP ユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。 ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。

Interlogix CamPlus 2 IP 拡張

定義

この Interlogix 拡張子は Interlogix CamPlus 2 IP カメラの一般的な設定を構成するために使用されています。

Interlogix CamPlus を定義するには 2 つの IP の拡張機能は、次の 2 つのいずれかのオプションをサポートしている必要がありますアーカイバライセンス：

- Interlogix CamPlus 2 台の IP MPEG4 カメラ
- Interlogix CamPlus 2 台の IP MJPEG カメラ

見る [アーカイバのオプション 50 ページ](#)。

一般的な 設定

すべての Interlogix CamPlus 2 つの IP 内線の設定は、単一のタブにあります

The screenshot shows the 'General' configuration tab for Interlogix CamPlus 2 IP units. The interface includes the following settings:

- General:**
 - Network card: 10.0.4.181 - Intel(R) 82566DM-2 Gigabit Network Connect
 - Transaction timeout: 10 sec
- Discovery:**
 - Unicast period: 1 min
- Default login:**
 - Default username: [empty field]
 - Default password: [empty field]
- Notification:**
 - TCP notification port: 1819
 - Notification channel: 1

A background image of the Interlogix CamPlus 2 IP unit is visible on the right side of the configuration panel.

パラメーター

説明 (1/2)

ネットワーク カード Interlogix CamPlus 2 IP ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト 時間は、ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待機します。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

ユニキャスト 期間 拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。

パラメーター	説明 (2/2)
デフォルト ログイン	<p>すべての Interlogix CamPlus 2 IP ユニットのユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。</p> <p>ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。</p>
TCP 通知 ポート	<p>アーカイバが使用するポートは Interlogix CamPlus 2 IP ユニットからの通知メッセージを受信します。</p> <p>イベントが発生すると信号が失われたり、信号が回復など、ユニットは、アーカイバとの TCP 接続を開始し、このポートを介して通知を送信します。</p>
お知らせ チャンネル	<p>複数のアーカイバは、と同じ単位をリッスンするように構成されている場合 フェールオーバーリスト各アーカイバは異なる報知チャンネル (1~8) で識別されなければなりません。あなたが唯一のアーカイバを使用している場合は、このパラメータは無視することができます。</p> <p>複数の場合 アーカイバは、次の規則が守らなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none">潜在的に同じ Interlogix CamPlus 2 つの IP ユニットの制御することができるすべてのアーカイバは、同じ TCP 通知ポートを設定する必要があります。すべてのアーカイバは別のを使用する必要があります。通知チャンネル。

Interlogix メガピクセル拡張

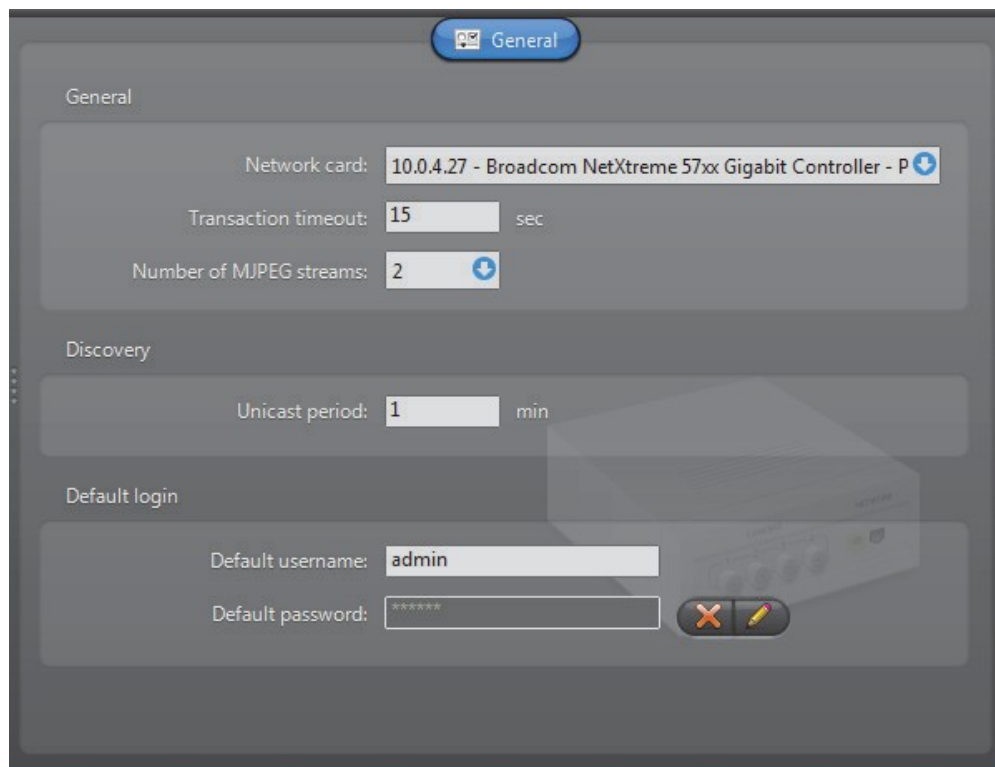
定義

この Interlogix 拡張は Interlogix メガピクセルのカメラを設定するために使用されます。Interlogix メガピクセル単位はサポートしていません。 [自動検出](#)。

Interlogix メガピクセル拡張を定義するには、お使いのアーカイバライセンスオプションをサポートしている必要があります [Interlogix メガピクセルカメラ](#)。見る [アーカイバのオプション 50](#) ページ。

一般的な 設定

すべての Interlogix メガピクセルの拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター	説明
ネットワーク カード	Interlogix ユニットとの通信に使用するネットワークカード。
トランザクションタイムアウト	ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。
MJPEG ストリームの数	数 各 Interlogix メガピクセル単位で生成しなければならない MJPEG のストリーム (1~3)。
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
デフォルト ログイン	デフォルトのログインはオプションです。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。

Interlogix MPEG-4 エクステンション

定義

Interlogix MPEG-4 の拡張は Interlogix ユニット (SymVeo、SymNet、SymDec、等) のほとんどの一般的な設定を構成するために使用されます。各 Interlogix 拡張は、アーカイバが同じ共有 Interlogix 単位のグループにアクセスすることを可能にします。検出ポート。所与のアーカイバは、いくつかの Interlogix MPEG-4 の拡張機能を使用することができます。各拡張は、別の検出ポートを使用して設定する必要があります。

Interlogix MPEG-4 の拡張機能を定義するには、お使いのアーカイバライセンスオプションをサポートしている必要があります。

Interlogix MPEG-4 カメラアナログモニタ。見る [アーカイバのオプション 50 ページ](#)。

一般的な設定

すべての Interlogix MPEG-4 拡張設定は、単一のタブにあります。

The screenshot shows a configuration window for Interlogix MPEG-4. It has three tabs: 'General', 'Discovery', and 'Default login'. The 'General' tab is active and shows the following settings: Network card: 10.0.4.27 - Broadcom NetXtreme 57xx Gigabit Controller; Transaction timeout: 5 sec; Command port: 1024. The 'Discovery' tab shows: Discovery port: 8092; Unicast period: 1 min; Broadcast period: 1 min (checked). The 'Default login' tab shows: Default password: *****. There is also a small image of a camera unit in the background.

パラメーター

説明 (1/2)

ネットワークカード Interlogix ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

コマンドポート アーカイバが使用するポートは Interlogix ユニットにコマンドを送信します。

パラメーター	説明 (2/2)
発見 ポート	<p>自動検出ポート。同じ Interlogix MPEG-4 拡張を介して制御されるべき全てのユニットは、同じ検出ポートで構成されなければなりません。</p> <p>Interlogix MPEG-4 と同じアーカイバに関連付けられている拡張子はすべて別の検出ポートを持っている必要があります。アーカイバは別のマシンにインストールされている別のアーカイバのスタンバイとして構成されている場合は、両者がまったく同じように構成された Interlogix MPEG-4 の拡張 (つまり、同じ検出ポートと同じログインパスワード) を持っていることを確認してください。</p>
ユニキャスト 期間	<p>拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。</p>
放送 期間	<p>拡張子がブロードキャストを使用して新しいユニットを発見しようとするとなる期間。あなたは、放送期間オプションをクリア <input checked="" type="checkbox"/> することでブロードキャスト検出を無効にすることができます。</p>
デフォルト ログイン	<p>すべての Interlogix CamPlus IP ユニットの、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。</p> <p>ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。</p>

Interlogix ウェーブレット/ JPEG 2000 拡張

定義
用されます。

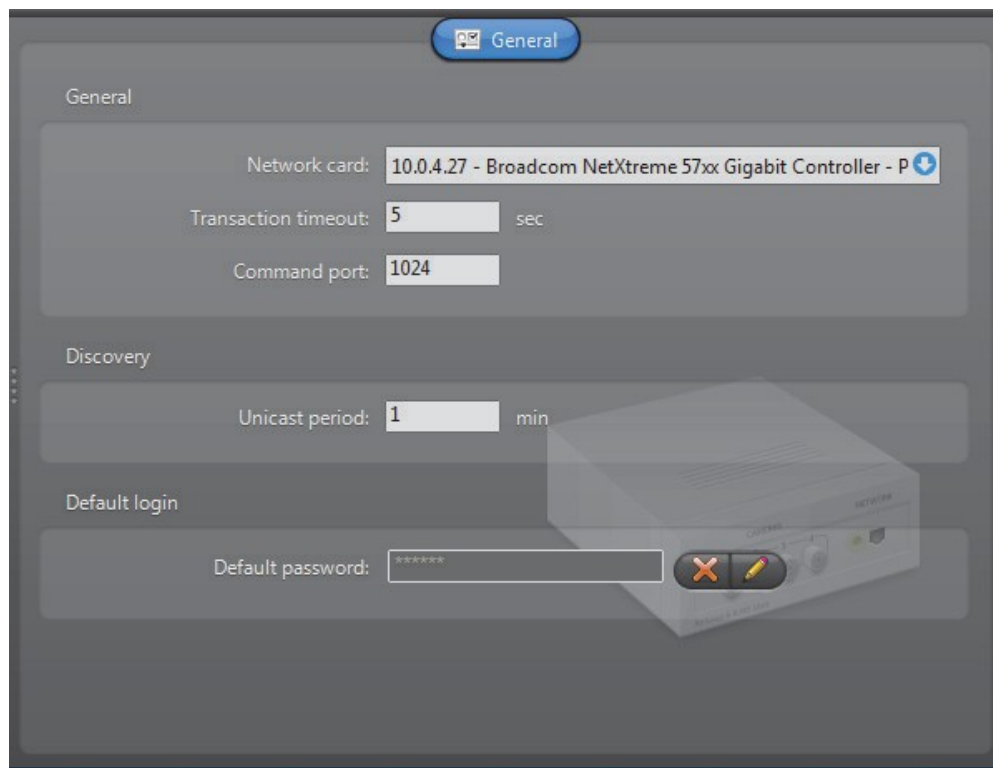
この Interlogix 拡張は Interlogix ウェーブレット/ JPEG 2000 単位を設定するために使

Interlogix ウェーブレット/ JPEG 2000 ユニットがサポートしていません。 [自動検出](#)。

Interlogix ウェーブレット/ JPEG 2000 の拡張機能を定義するには、お使いのアーカイバライセンスオプションをサポートしている必要があります [Interlogix ウェーブレット/ JPEG 2000 台のカメラ](#)。見る [アーカイバのオプション 50 ページ](#)。

一般的な 設定

すべての Interlogix ウェーブレット/ JPEG 2000、拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター

説明 (1/2)

ネットワーク カード Interlogix ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクション タイムアウト ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

コマンド ポート アーカイバが使用するポートは Interlogix ユニットにコマンドを送信します。

ユニキャスト 期間 拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。

放送 期間 拡張子がブロードキャストを使用して新しいユニットを発見しようとするとなる期間。あなたは、放送期間オプションをクリア することでブロードキャスト検出を無効にする

ことができます。

パラメーター	説明 (2/2)
デフォルトパスワード	デフォルトのパスワードは、サービス利用者のパスワードです。アーカイバは、ユニットの設定を変更するためにサービスのユーザとして接続する必要があります。 ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。

IQinVision 拡張

定義

IQinVision 拡張が IQinVision IQeye カメラを設定するために使用されます。IQinVision ユニットのサポートしていません。自動検出。

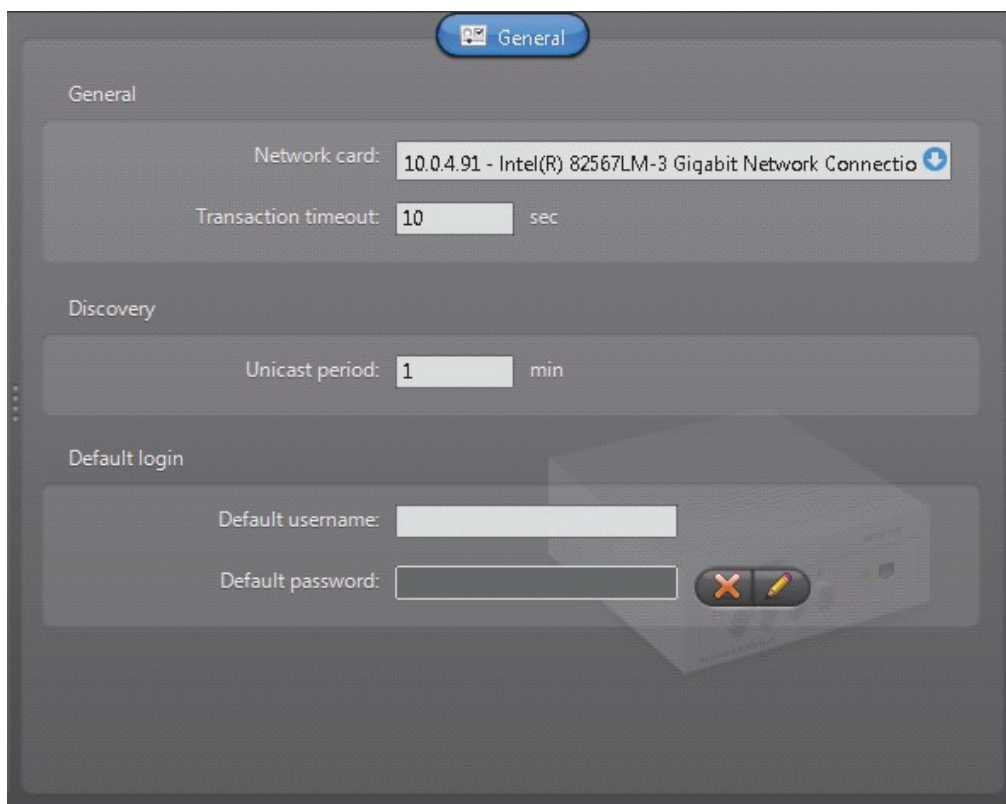
IQinVision 拡張を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、次のいずれかのオプションをサポートする必要があります。

- IQinVision H.264 カメラ
- IQinVision MJPEG カメラ

見る [アーカイバのオプション 50 ページ](#)。

一般的な 設定

クリック [一般的な IQinVision 拡張設定を参照するには、タブ :](#)



パラメーター	説明
ネットワーク カード	ユニットとの通信に使用するネットワークカード。
トランザクションタイムアウト	ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
デフォルト ログイン	特定のユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。

パナソニック 拡張

定義

パナソニック拡張子はアーカイバによって制御パナソニックユニットの一般のおよびセキュリティ設定を構成するために使用されます。パナソニックユニットはサポートしていません。 [オートマッチック](#) 発見。

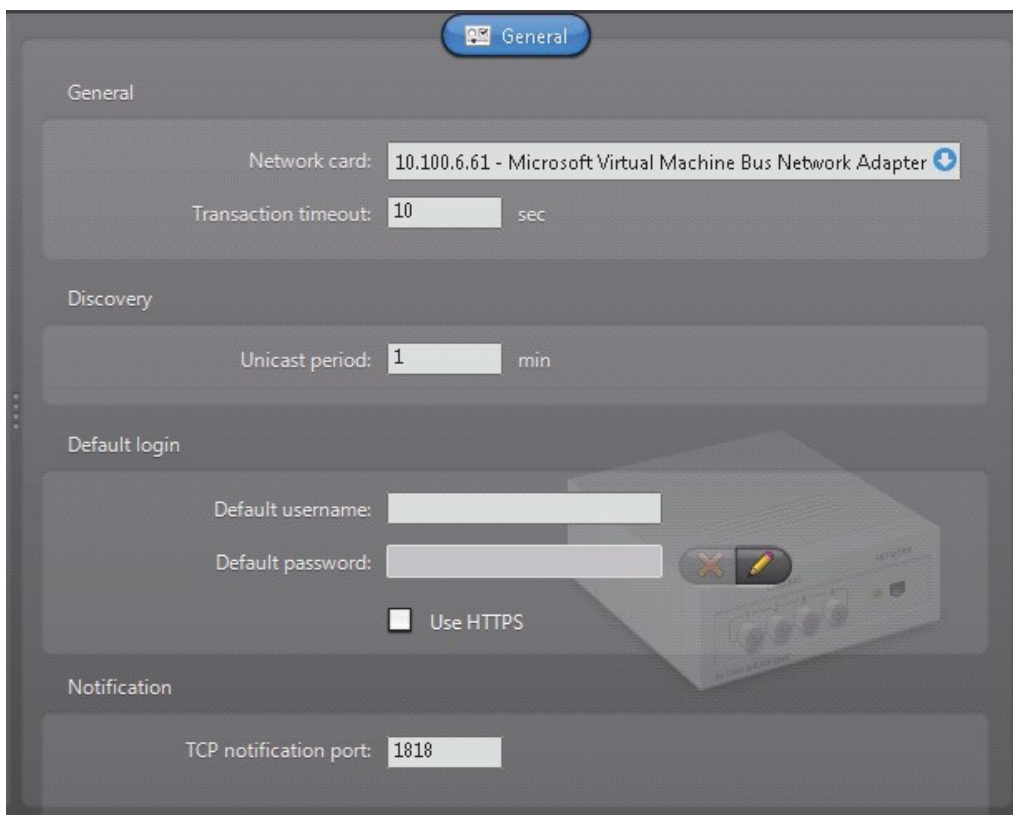
パナソニックの拡張を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、次の2つのオプションのいずれかをサポートする必要があります。 **パナソニック MPEG-4 カメラ** 若しくは **パナソニック MJPEG カメラ**。

注意 パナソニックのユニットを選択し、汎用拡張を介して制御されています。見る [一般的な拡張](#) サポートパナソニック・ユニットについては **108** ページ、および使用する正しい拡張子に、Omnicast のリリースノートを参照してください。

見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

一般的な 設定

すべて Panasonic 拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター

説明 (1/2)

ネットワーク カード パナソニック・ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト 時間は、ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待機します。3回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

ユニキャスト 期間 拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。

パラメーター	説明 (2/2)
デフォルト ログイン	<p>すべてのパナソニック・ユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">- 動画ユニットを追加 ページ 405 に。 <p>あなたのユニットのための HTTPS プロトコルを有効にするには、HTTPS を使用]オプションを選択します。</p>
TCP 通知 ポート	<p>アーカイバが使用するポートは、パナソニックユニットから通知メッセージを受信します。</p> <p>イベントが発生すると信号が失われたり、信号が回復など、ユニットは、アーカイバとの TCP 接続を開始し、このポートを介して通知を送信します。</p>
お知らせ チャンネル	<p>複数のアーカイバは、と同じ単位をリッスンするように構成されている場合 フェールオーバーリスト各アーカイバは異なる報知チャンネル (1~8) で識別されなければなりません。あなたが唯一のアーカイバを使用している場合は、このパラメータは無視することができます。</p> <p>複数の場合 アーカイバは、次の規則が守らなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none">• 潜在的に同じパナソニック・ユニットを制御することができるすべてのアーカイバは、同じ TCP 通知ポートを設定する必要があります。• すべてのアーカイバは別のを使用する必要があります。 通知チャンネル。

Pelco の拡張

定義

Pelco の拡張は、アーカイバによって制御 Pelco のユニットの一般的な設定を構成するために使用されます。

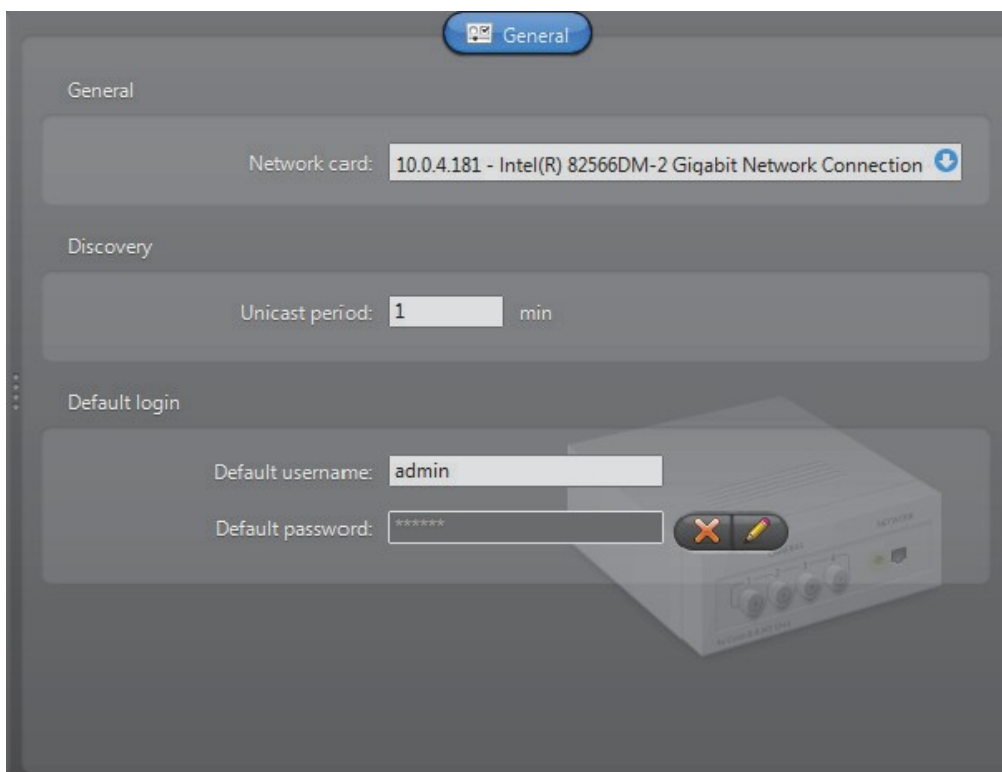
Pelco の単位はサポートしていません。 [自動検出](#)。

Pelco の拡張を定義するには、お使いのアーカイバライセンスオプションをサポートしている必要があります Pelco の MPEG4 カメラ。見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

注意 Pelco の単位を選択し、汎用拡張を介して制御されています。見る [一般的な拡張](#) サポートの Pelco ユニットについては 108 ページ、および使用する正しい拡張子に、Omnicast のリリースノートを参照してください。

一般的な設定

すべての Pelco 拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター	説明
ネットワーク カード	ユニットとの通信に使用するネットワークカード。
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
デフォルト ログイン	Pelco のユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードを必要としません。これらの設定は、既定値としてここに表示されます：彼らは無視することができます。

Sigura 拡張

定義

Sigura 拡張子はアーカイバによって制御 Sigura ユニットの一般のおよびセキュリティ設定を構成するために使用されます。Sigura ユニットのサポートしていません。自動検出。

Sigura 拡張を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、次のいずれかをサポートする必要があります。

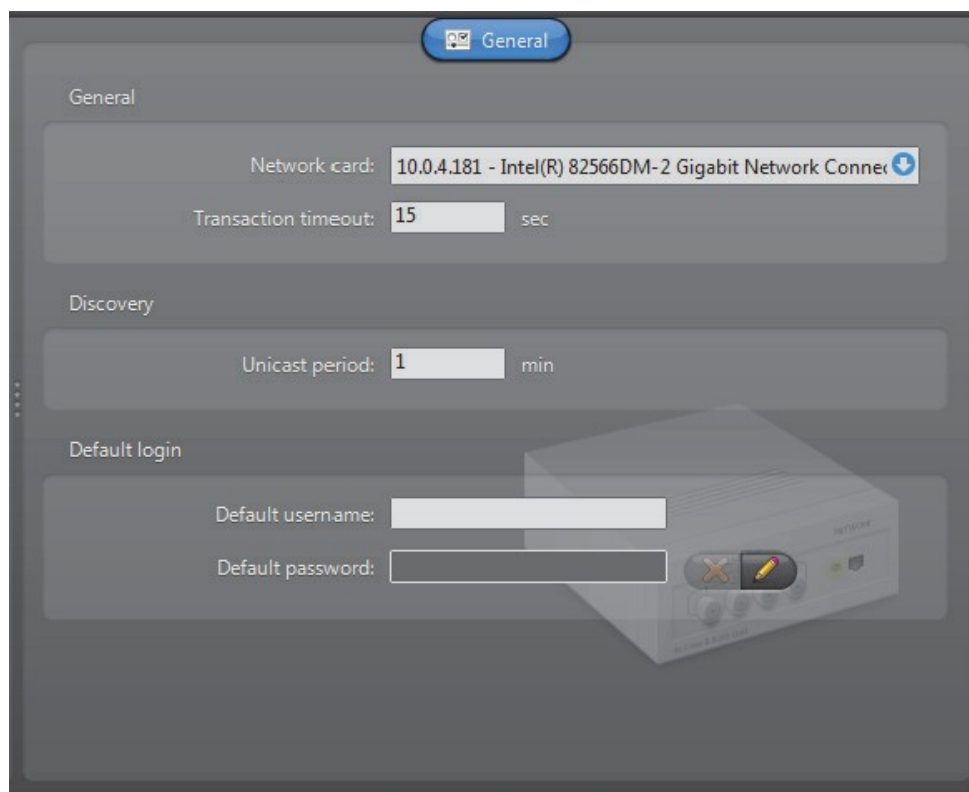
Sigura H.264 カメラ、Sigura MPEG4 カメラ、または Sigura MJPEG カメラ。

注意 Sigura 単位を選択し、汎用拡張を介して制御されています。見る [一般的な拡張](#) サポート Sigura 単位については 108 ページ、および使用する正しい拡張子に、Omnicast のリリースノートを参照してください。

見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

一般的な設定

すべての Sigura 拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター

説明 (1/2)

ネットワークカード Sigura ユニットとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクションタイムアウト 時間は、ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待機します。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

パラメーター	説明 (2/2)
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
デフォルト ログイン	一部のユニットには、ユーザー名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。 ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。

ソニー拡張

定義

ソニーの拡張子はアーカイバによって制御されるソニーの IP カメラの一般的な設定を構成するために使用されています。ソニー・ユニットはサポートしていません。自動検出。

ソニーの拡張を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、次の 2 つのオプションのいずれかをサポートする必要があります。

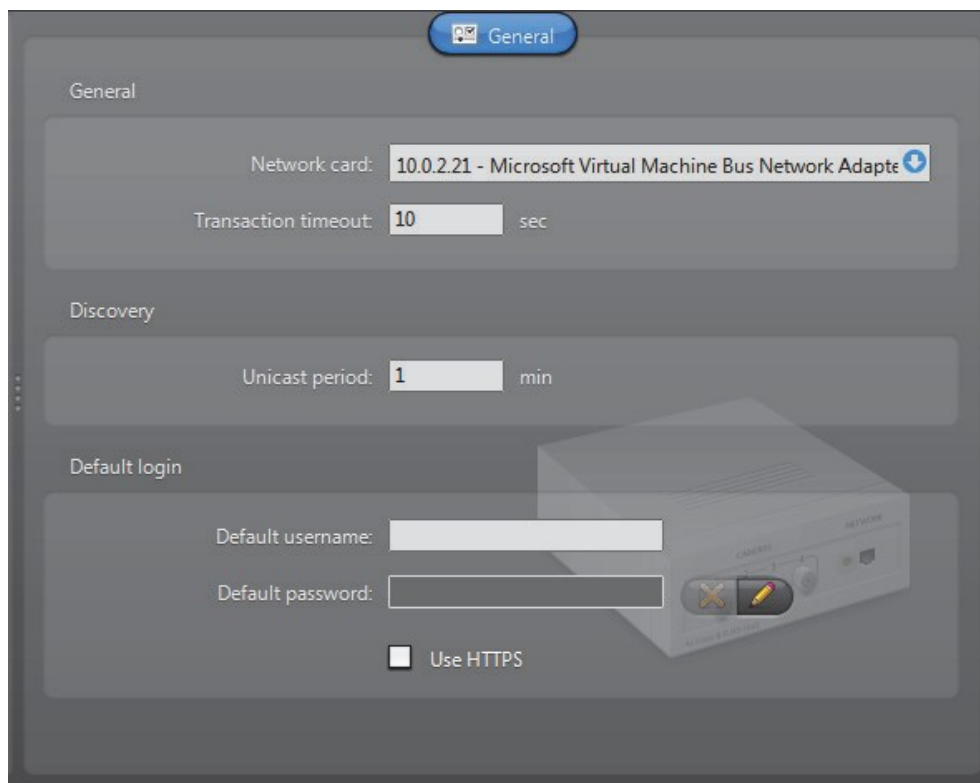
- ソニーMPEG-4 カメラ
- ソニーMJPEG カメラ

注意 ソニーの単位を選択制御され、ジェネリック拡張を介しました。見る一般的な拡張サポートソニー単位については 108 ページ、および使用する正しい拡張子に、Omnicast のリリースノートを参照してください。

見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

一般的な 設定

すべてのソニーの拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター	説明
ネットワーク カード	ソニー・ユニットとの通信に使用するネットワークカード。
トランザクションタイムアウト	ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。
デフォルトストリーム	アーカイバは、すべて新たに発見されたユニットのために作成しようとする必要があることをデフォルトのストリームタイプ (MJPEG または MPEG-4)。すべてのソニーの IP カメラは、MJPEG エンコーダをサポートしています。 この設定は単なる好みではなく、絶対的な要件を示しています。単位はデフォルトのエンコーダタイプをサポートしていない場合は、サポートされているものが代わりに作成されます。
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
デフォルト ログイン	すべてのソニー・ユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。 あなたのユニットのための HTTPS プロトコルを有効にする

には、HTTPS を使用]オプションを選択します。

Verint 社延長

定義

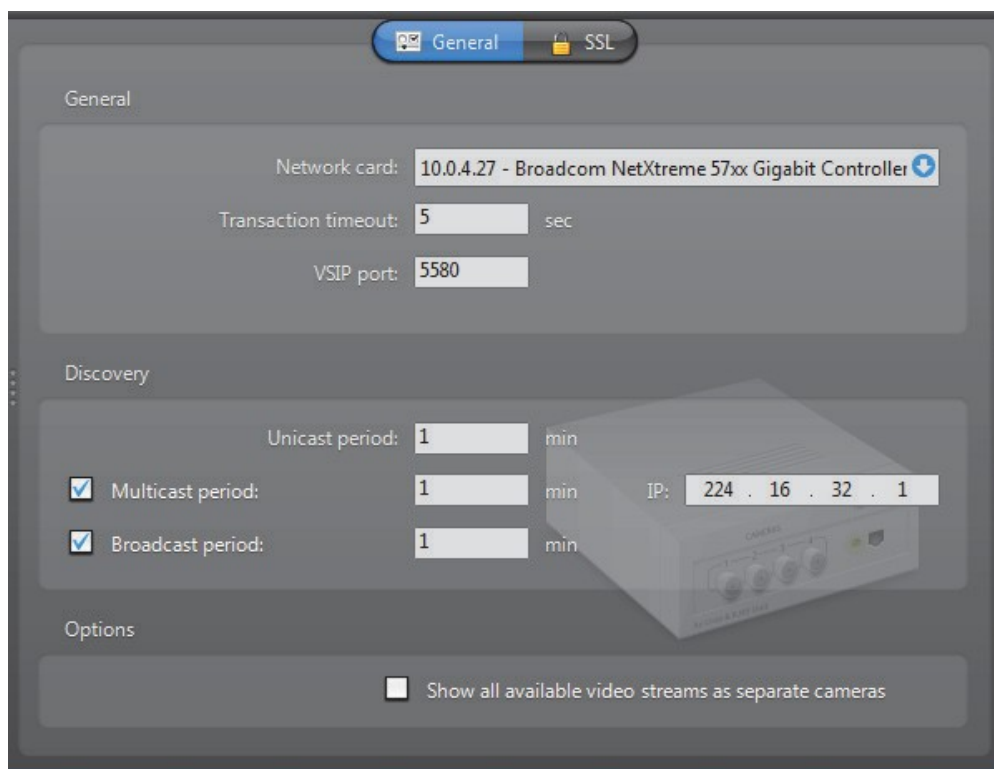
Verint 社の拡張は、Verint 社単位の発見やセキュリティパラメータを設定するために使用されています。各 Verint 社拡張は、アーカイバが同じ共有 Verint 社単位の特定のグループにアクセスすることを可能にします **VSIP ポート**。Archiver は、複数の Verint 社の拡張を監督することがあります。各 Verint 社の拡張子は異なる VSIP ポートを設定する必要があります。

Verint 社の拡張を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、以下のオプションをサポートする必要があります。

Verint 社 MPEG-4 カメラ/アナログモニタ。見る [アーカイバのオプション 50 ページ](#)。

一般的な設定

ザ・一般的な タブは、Verint 社単位の共通の設定に関係します。



パラメーター

説明 (1/2)

ネットワーク カード ネットワークカード Verint 社ユニットと通信するために使用されます。

**トランザクション
タイムアウト**

ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

VSIP ポート

ポートが自動検出に使用しました。同じ Verint 社の拡張を介して制御されなければならないすべてのユニットは、同じ VSIP ポートを設定する必要があります。

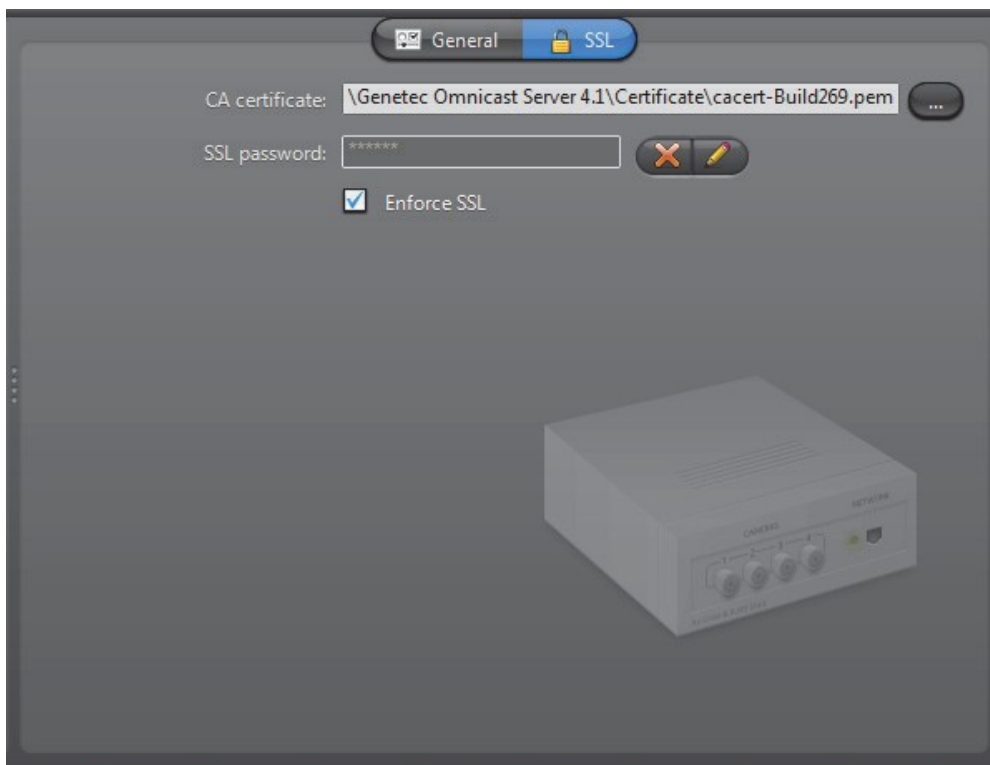
同じアーカイバに関連する Verint 社の拡張子はすべて別の検出ポートを持っている必要があります。アーカイバは別のマシンにインストールされている別のアーカイバのスタンバ

イとして構成されている場合は、両者が全く同じ方法（すなわち、同じ一般的と SSL の設定）に設定され Verint 社の拡張子を持っていることを確認してください。

パラメーター	説明 (2/2)
ユニキャスト 期間	拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。
マルチキャスト 期間	<p>拡張マルチキャストを使用して新しいユニットを発見しようとする期間。あなたはクリアすることにより、マルチキャスト検出を無効にします <input checked="" type="checkbox"/> マルチキャスト期間 オプション。</p> <p>次の IP アドレスがの Omnicast で使用される標準のマルチキャスト IP アドレスです。それはすでに何か他のものために使用されている場合にのみ、それを変更します。</p>
放送期間	拡張子がブロードキャストを使用して新しいユニットを発見しようとする期間。あなたは、放送期間オプションをクリアすることで <input checked="" type="checkbox"/> ブロードキャスト検出を無効にすることができます。
<input checked="" type="checkbox"/> 別々のカメラなど、すべての利用可能なビデオストリームを表示します	<p>Omicast は、同じビデオソースから複数のビデオストリームを生成するエンコーダをサポートしています。このようなユニットが発見された場合、アーカイブは、複数のストリーミング選択肢とビデオエンコーダを作成します。カメラを参照してください - <i>ビデオストリームの使用</i> 242 ページで。</p> <p>Verint 社のユニットを使用すると、別のカメラのように、すべてのビデオストリームを表現するかを選択できます。これは望ましい動作である場合には、このオプションを選択します。</p>


SSL 設定

SSL]タブでは、改ざんやハッキングを防止するために、同じ VSIP ポートに答えるユニットのグループの周りのセキュリティを強化することができます。



SSL (Secure Sockets Layer) は、ネットワークを介して通信する必要があるアプリケーションを保護するために使用されるプロトコルです。データ量が莫大になるので Omnicast のは、ビデオストリームを除いて、アーカイバとユニット間のすべてのメッセージの送信に SSL をサポートしています。Omicast ので SSL を使用する目的は、盗聴を停止しない、悪意のある攻撃を防ぐためです。

あなたは Verint 社の拡張子の SSL 設定にアクセスする前に、アーカイバのオプションの SSL は、お使いの Omnicast のライセンスでサポートされている必要があります。

パラメーター	説明
CA 証明書	CA 証明書は、アーカイバとユニット間の SSL 上の一般的な契約です。ユニットの製造業者によって指示されない限り、この証明書を変更しないでください。
SSL パスワード	SSL パスワードは SSL 暗号化に対する追加のセキュリティです。SSL を持つ全てのユニットは、同じパスワードを使用する必要があります有効。 新しいパスワードを設定するか、パスワードを変更するには、クリックしてください  ボタン。君はそれを確認するためにパスワードを 2 回入力する必要があります。
施行します SSL	SSL は、このアーカイバによって制御されるすべてのユニットに施行されなければならない場合にのみ、このオプションを選択します。このオプションをクリアすると、アーカイバは SSL が有効になっているユニットとの通信に SSL を使用します。ユニットを参照してください - セキュリティ ページ 415 に。

VIVOTEK 拡張

定義

VIVOTEK 拡張子はアーカイバによって制御 VIVOTEK IP カメラの一般的な設定を構成するために使用されています。VIVOTEK ユニットはサポートしていません。自動検出。

VIVOTEK 拡張子を定義するには、お使いのアーカイバのライセンスは、次の2つのオプションのいずれかをサポートする必要があります。

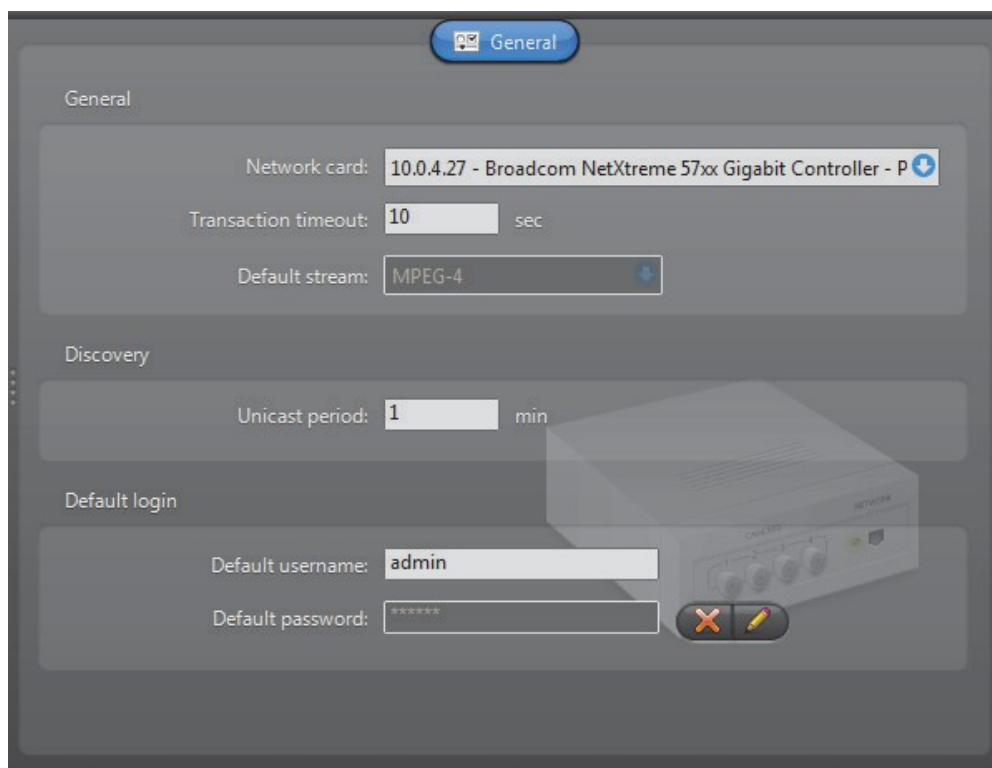
- VIVOTEK MPEG-4 カメラ
- VIVOTEK MJPEG カメラ

注意 VIVOTEK ユニットを選択し、汎用拡張を介して制御されています。見る一般的な拡張サポート VIVOTEK 単位については 108 ページ、および使用する正しい拡張子に、Omnicast のリリースノートを参照してください。

見る [アーカイバのオプション](#) 50 ページ。

一般的な 設定

すべての VIVOTEK 拡張設定は、単一のタブにあります



パラメーター

説明 (1/2)

ネットワーク カード VIVOTEK IP カメラとの通信に使用するネットワークカード。

トランザクション タイムアウト ユニットにコマンドを再送信する前に応答を待つ時間。3 回失敗するとユニットが失われたと考えられています。

パラメーター	説明 (2/2)
デフォルトストリーム	<p>アーカイバは、すべて新たに発見されたユニットのために作成しようとする必要があることをデフォルトのストリームタイプ (MJPEG または MPEG-4)。すべての VIVOTEK IP カメラは、MJPEG エンコーダをサポートしています。</p> <p>この設定は単なる好みではなく、絶対的な要件を示しています。単位はデフォルトのエンコーダタイプをサポートしていない場合は、サポートされているものが代わりに作成されます。</p>
ユニキャスト期間	<p>拡張は、各ユニットがまだシステムでアクティブであるかどうかを調べるためにユニキャストを使用して接続テストを繰り返すことにより、期間。</p>
デフォルトログイン	<p>すべての VIVOTEK ユニットは、ユーザ名とアクセス制御のためのパスワードが必要です。ログインパラメータは、各ユニット毎に、またはすべてのユニットに対して個別に定義することができます。</p> <p>ユニット - 設定ツールを参照してください - 動画ユニットを追加 ページ 405 に。</p>

補助アーカイバ





前書き



補助 Archiver は補足的なアーカイブサービスです。異なり、定期的な [アーカイバ](#)、補助アーカイバは、いずれかの特定にバインドされていません [検出ポート](#)。したがって、連合しているものも含め、システム内の任意のカメラをアーカイブする自由です。また、補助 Archiver は、通常のアーカイバが続くものとは異なるスケジュール上の異なるビデオストリームをアーカイブする選択肢を提供しています。

補助アーカイバの複数のインスタンスが同じシステム上で実行することができるが、それらの使用はで付与する必要があります [補助アーカイバの数](#) の あなたの Omnicast ライセンス。見る [ディレクトリオプション47](#) ページ。

補助アーカイバのローカル設定は、次のタブにあります。

アイ	タブ	説明
	一般的な	一般的な補助アーカイバの設定（システム、ネットワーク）
	アーカイブ	アーカイブ設定（データベース、ストレージディスク、
	バックアップ	バックアップ設定（バックアップフォルダ、テープグルー
	セキュリティ	セキュリティ設定（ビデオ透かし、SSL の設定）。

このサーバーアプリケーションのマシンに依存しないパラメータは、設定ツールで構成されています。見る [補助アーカイバ223](#) ページ。